

現行神社法令要覽

特 269

128

×  
複写



始





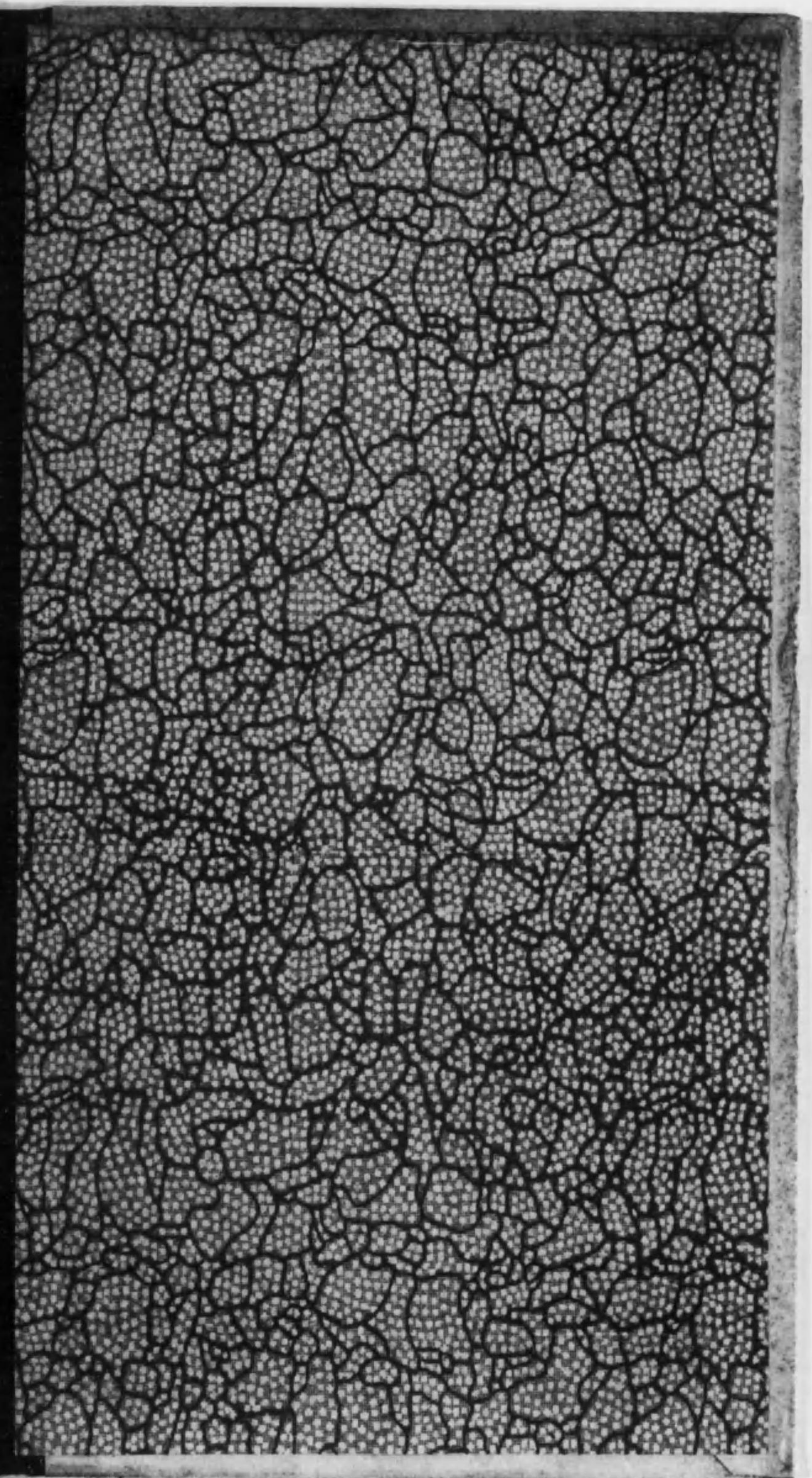
425  
18

昭和十五年六月



現行神社法令要覽

法財人  
大  
阪  
國  
學  
院





現行神社法令要覽目次

官制・職制

○神宮司廳官制	明二九年勅令三七一號	一
○神宮神部署官制	明四五年勅令八五號	四
○造神宮使廳官制	明三一年勅令百二號	六
○官國幣社職制	明三五年勅令二七號	八
○官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件	明三五年省令一號	一〇
○官幣社處務規則	明三七年府訓令三號	三
○府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件	明二七年勅令二二號	七
○官國幣社神職職印調製ノ件	明三〇年内務省訓令三六〇號	一九
○府縣社以下神社神職職印調製ノ件	明三〇年社甲七號通牒	一九
○官印製式	明三一年閣令五號	二〇

任

用



○官國幣社及神宮神部署神職任用令	明三五年勅令二八號	二
○神職高等試驗施行細則	大一四年內務省告示百一七號	二六
○神職尋常試驗細則	大五年大阪府告示六五號	三〇
○神職高等試驗並神職尋常試驗手數料納付ニ關スル件	大一五年省令四〇號	三〇
○府社縣社以下神社神職任用規則	明三五年省令四號	三五
○社司社掌試驗施行細則	明四〇年府令六七號	三九

官等・俸給・旅費・諸給

○官國幣社神職俸給規則	大一〇年省令二七號	四三
○官幣社神職以下旅行及旅費ニ關スル規程	明四四年府調五四號	四八
○社司社掌俸給其他給與規則	大一〇年府令八四號	五〇

服 務

○官吏服務紀律	明二〇年勅令三九號	五九
○官國幣社以下神社神職奉務規則	大二年內務省調令九號	六二
○神官ハ葬儀ニ關係セサルノ件	明一五年內務省達丁一號	六四

分 限 ・ 懲 戒

○神宮司廳神宮神部署及官國幣社以下神社 判任以上ノ待遇職員ノ休職ニ關スル件	大四年勅令一三號	六五
○官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件	明四〇年勅令一七七號	六七
○文 官 懲 戒 令	明三二年勅令六三號	六八

祭 祀

○官國幣社以下神社祭祀令	大三年勅令一〇號	七〇
○即位禮及大嘗祭ノ當日官國幣社以下神社 ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件	大四年勅令一〇九號	七三
○立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ 行フヘキ祭祀ニ關スル件	大五年勅令二三一號	七三
○神宮並官國幣社以下神社ニ於テ行フ恒例式	大三年內務省調令二號	七三
○官國幣社以下神社祭式	大三年省令四號	七四
○護國神社例祭鎮座祭及合祀祭祭式及祝詞	昭一四年省令一三號	七九
○官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件	大三年省令五號	一九
○遷座式執行ニ關スル件	明一〇年內務省達丁八號	二〇



服制

- 神官神職服制：大元年勅令五三號……………三二
- 神官神職服裝規則：大二年內務省訓令四號……………三二
- 官國幣社以下神社幣帛供進使服制：明四四年勅令一三〇號……………三五
- 幣帛供進使隨員服制：大二年內務省訓令三號……………三七
- 官國幣社以下神社ノ遷座祭ニ於テ前行及供奉ノ所  
役ヲ奉仕スル者竝ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ニ  
於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ服制ニ關スル件  
昭一三年勅令二四一號……………三六
- 官國幣社以下神社ノ遷座祭ニ護國神社ノ鎮座祭  
及合祀祭ニ於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ隨員ノ  
服制ニ關スル件  
昭一四年內務省訓令一號……………三九
- 勅使參向御治定ノ件……………三〇

神饌・幣帛・供進使

- 官幣社例祭竝官國幣社祈年新嘗  
兩祭神饌幣帛料ニ關スル件  
大八年末學乙四四八〇號式部長官通牒……………三一
- 國幣社例祭竝ニ本殿遷座祭ニ供  
進スヘキ幣帛神饌料ニ關スル件  
昭一三年內務省訓令第九號……………三六
- 府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供  
進ニ關スル件  
明三九年勅令九六號……………三七

- 府縣社郷社村社及護國神社ニ供進  
スヘキ神饌幣帛料金額  
大九年省令二四號……………三八
- 神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定標準ニ關スル件  
明三九年內務省訓令四九五號……………四一
- 神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定標準ニ關スル件  
明四二年局第一三〇號神社局長回答……………四二
- 神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定標準ニ關スル件  
大三年三發局一二四號通牒……………四三
- 伊勢神宮ヲ除クノ外官幣諸社祭典ノ節地方  
官參向ノ件  
明六年太政官布告五三號……………四三
- 官國幣社祈年祭新嘗祭例祭ノ節地方官參向ノ件  
明一六年內務省達乙第八號……………四四
- 府縣社以下幣帛供進使ニ關スル件  
明四四年內務省訓令四七九號……………四四
- 大喪中神社祭典ノ節幣帛供進使參向ニ關スル件  
大元年社第一一六號通牒……………四五
- 神饌幣帛料供進指定神社ノ祈年新嘗兩祭典  
日ニ關スル件  
大三年社第一八號通牒……………四五

祭神・神社名・社格・明細帳・境内・創立  
移轉・廢合・參拜・寄附金・神札

- 祭神・神社名・社格・明細帳・境内・創立・移轉  
廢合・參拜・寄附金・神札等ニ關スル件  
大二年省令六號……………四六
- 招魂社ヲ護國神社ト改稱ノ件……………四六



- 官國幣社正式參拜場所並著服等ノ件……………大三年社第六三號神社局長通牒……………一六四
- 皇族下馬下乗ノ場所決定方ノ件……………明七年教部省達書甲第六號……………一六五
- 府縣社皇族下馬下乗場所ノ決定伺ヲ要セサルノ件……………明一三年內務省達乙二九號……………一六六
- 官國幣社既定ノ下馬下乗場所更定方處理ノ件……………明二四年局第四一號社寺局長回答……………一六六
- 官幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ……………明七年太政官達……………一六七
- 菊御紋ヲ用ユルヲ許ス……………明七年太政官達……………一六七
- 菊御紋禁止ノ布告前神殿ニ裝飾ノ菊御紋存置ノ件……………明一二年太政官達二三號……………一六七
- 社寺濫ニ菊章ヲ用ユルヲ禁ス……………明二年太政官布告……………一六七

氏子・崇敬者

- 町村分合等ニ依リ甲社ノ氏子乙社ノ氏子ト相成節甲乙社神官氏子連署届出……………明一五年內務省達乙二八號……………一六八
- 氏子ハ一戸一神社ニ限ルノ件……………明二九年局第一二號社寺局長回答……………一六八
- 社寺總代人選舉届出及願届書收入財産取調方……………明一四年內務省達乙第三三號……………一六九
- 社寺總代人選舉ニ關スル件……………明二四年內務省調一〇六三號……………一七〇
- 社寺總代人被選舉資格ニ關スル件……………明二七年甲社第三號社寺局長回答……………一七一
- 社寺總代人改選方ニ關スル件……………明三五年島甲第九〇號神社局長通牒……………一七一

- 總代人選舉管理者選定方ニ關スル件……………明三四年社甲第一五號神社局長回答……………一七二
- 社寺總代人新舊交替期ニ關スル件……………明三八年宗甲第二一號神社宗教兩局長依命通牒……………一七三
- 社寺總代人任期及改選ニ關スル件……………明三八年神社宗教兩局長回答……………一七五
- 數社合併ノ場合神職ノ資格及總代人改選ニ關スル件……………明四三年玉甲第六八號神社局長依命通牒……………一七五
- 社寺總代人選舉届出方ノ件……………明二四年管甲第三二號內務書記官……………一七六
- 鎮座氏神ニ關シ氏子猥ニ去就スヘカラサル件……………明一五年甲第四七號……………一七六
- 神社寺院總代人ノ件……………明一五年甲第五四號……………一七七
- 社寺總代人選舉ニ關スル件……………明三六年調令二七號……………一七八

財産・會計

- 神社財産ニ關スル件……………明四一年法律二二三號……………一八〇
- 神社財産ノ登録ニ關スル件……………明四一年勅令一七七號……………一八一
- 神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件……………明四一年內務省令一二號……………一八三
- 神社ノ財産登録管理及會計ニ關スル細則……………明四一年府令一一二號……………一八九
- 神社所有有價證券ノ種類ニ關スル件……………大三年社第三七號神社局通牒……………一三三

委任條款

- 市區町村長警察署長委任事項……………大一五年府令五八號……………一三三



附 錄

○神社諸願屆書樣式

一、神職定員增減願.....	二三四
二、神職推薦.....	二三五
三、增俸內申.....	二三六
四、旅行願.....	二三七
五、旅費規程認可申請.....	二三八
六、忌引屆.....	二三九
七、神饌幣帛料供進神社指定願.....	二四〇
八、幣帛警備通知.....	二四一
九、臨時祭執行屆.....	二四二
一〇、昇格願.....	二四三
一一、明細帳追記願.....	二四四
一二、境內地增減願.....	二四五

一三、境內地使用願.....	二四六
一四、土地處分願.....	二四七
一五、制札建設願.....	二四八
一六、營繕願.....	二四九
一七、枯損木(境内外地)伐採願.....	二五〇
一八、氏子總代改選屆.....	二五一
一九、社務及財產引繼屆.....	二五二
二〇、氏子納金集纏屆.....	二五三
二一、基本財產管理方法認可申請.....	二五四
二二、寶物貴重品持出願.....	二五五
二三、財產登錄申請.....	二五六
二四、豫算申請.....	二五七
二五、決算報告.....	二五八
二六、決算總計表.....	二五九
二七、追加豫算申請.....	二六〇
二八、追加更正豫算申請.....	二六一



官制、職制

○神宮司廳官制

(明治二十九年十一月三十日勅令第三百七十一號)

改正 明治三十三年九月勅令第三七六號、四十二年九月第二二一號、四十五年四月第八七號、第九一號、大正二年一〇月第二九〇號、一〇年一二月第四六七號、一一年三月第一三六號、一三年一月第二九二號、昭和二年三月第二六號、八年四月第四五號、二年七月第一五三號  
朕神宮司廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神宮司廳官制

第一條 神宮司廳ニ左ノ職員ヲ置ク

- |     |      |        |
|-----|------|--------|
| 祭主  | 一人   | 勅任     |
| 大宮司 | 一人   | 勅任     |
| 少宮司 | 一人   | 勅任又ハ奏任 |
| 禰宜  | 十一人  | 奏任     |
| 衛士長 | 一人   | 奏任     |
| 技師  | 專任二人 | 奏任     |



權 補 宜 二十人 判 任

宮 掌 四十人 判 任

衛 士 副 長 二人 判 任

技 手 專任十二人 判 任

第二條 祭主ハ親任トシ皇族ヲ以テ之ニ任ス大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス但公爵ヲ以テ之ニ任スルコトアルヘシ

祭主故障アルトキハ臨時ニ祭主ヲ置クコトヲ得

第三條 大宮司ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ祭主ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ所部ノ職員ヲ統督シ廳中ノ事務ヲ管理ス

第四條 大宮司ハ廳中ノ事務ヲ分掌スル爲部課ヲ置キ及庶務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第五條 少宮司ハ大宮司ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ廳中ノ事務ヲ整理ス大宮司事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 禰宜ハ大宮司及少宮司ノ命ヲ承ケ祭祀ニ奉祀シ事務ヲ分掌ス

第七條 衛士長ハ大宮司及少宮司ノ命ヲ承ケ衛士副長及衛士ヲ指揮監督シ警衛事務ヲ掌理ス

第八條 技師ハ大宮司及少宮司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條 權補宜又ハ宮掌ハ上官ノ指揮ヲ承ケ祭事及庶務ニ従事ス

第十條 衛士副長ハ衛士長ヲ佐ケ警衛事務ヲ分掌ス衛士長事故アルトキハ上官ノ指揮ヲ代理ス

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第十二條 神宮司廳ニ伶人、衛士及森林監守ヲ置ク判任官ノ待遇トス

伶人及衛士ノ定員ハ大宮司ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第十三條 伶人ハ上官ノ指揮ヲ承ケ奏樂ニ従事ス

第十四條 衛士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衛ニ従事ス

第十五條 森林監守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ従事ス

第十六條 大宮司ハ所部ノ判任官及判任官待遇職員並神宮神部署ノ判任官待遇職員ノ進退並懲戒ヲ内務大臣ニ具狀ス但シ衛士及森林監守ノ進退ハ之ヲ專行ス

附 則 (大正十年十二月勅令第四百六十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年勅令第八十九號及大正二年勅令第二百八十九號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ神宮ノ伶人又ハ衛士タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各同俸給ヲ以テ本令ニ依ル神宮ノ伶人又ハ衛士ニ任セラレタルモノトス



# ○神宮神部署官制

(明治四十五年四月二十二日  
勅令第八十五號)

四

改正 大正一〇年一二月勅令第四六八號、一三年一月第二九三號、昭和二年三月第二七號  
昭和十五年三月第八八號  
朕神宮神部署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 神宮神部署官制

第一條 神宮神部署ハ神宮大官司ノ管理ニ屬シ大麻及曆ノ製造頒布竝臣民ノ奉賽ニ關スル事ヲ掌ル

署長

神部

二人

奏任待遇

神部補

二十八人

判任待遇

伶人

判任待遇

伶人ノ定員ハ神宮大官司ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第三條 署長ハ神宮禰宜ヲ以テ之ニ充ツ神宮大官司ノ命ヲ承ケ署務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條 署長事故アルトキハ神宮大官司ハ神部ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

第五條 神部ハ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第六條 (削除)

第七條 神部補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 (削除)

第九條 伶人ハ上司ノ指揮ヲ承ケ奏樂ニ従事ス

第十條 神部ハ内務大臣奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ神部補及伶人ハ内務大臣之ヲ命ス

第十條ノ二 神宮大官司ハ必要アルトキハ神宮司廳職員ヲシテ臨時神宮神部署ノ事務ニ従事セシムルコトヲ得

第十一條 神宮神部署職員ノ俸給ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

神部署官制ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和二年勅令第二七號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ主事又ハ主事補ノ職ニ在リ休職中ナルモノニ付テハ其ノ休職満期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ職ヲ置カレタルモノトス



# ○造神宮使廳官制

(明治三十一年六月十七日)  
勅令 第百二十二號

六

改正 明治三十三年四月勅令第一六四號、三六年一月第二一二號、四三年一〇月第四二一號

朕造神宮使廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 造神宮使廳ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ神宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ掌ル

第二條 造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

使  
副使  
主事  
技師  
屬  
技手

第三條 使ハ一人神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ管理ス

第四條 使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條 副使ハ一人勅任トス内務省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム使ノ事務ヲ佐ケ使事故アルトキハ其ノ職務

ヲ代理ス

第六條 主事ハ一人奏任トス使、副使ノ命ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ分掌ス

第七條 技師ハ使、副使ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ従事ス



# ○官國幣社職制

(明治三十五年二月十日  
勅令第二十七號)

八

改正 明治四四年五月勅令第一七四號、大正九年一月第一號、一〇月第四七一號、昭和三年五月第八〇號、四年六月第一六七號、七年一〇月第三二八號、九年四月第八九號、一一年八月第二五〇號、一三年四月二四七號

朕官國幣社職制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 官國幣社職制

第一條 官幣社及國幣社ニ左ノ神職ヲ置ク

宮 司 一 人

權 宮 司 一 人

禰 宜 一 人

主 典 一 人

宮 掌 一 人

但シ官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、  
官幣大社橿原神宮、官幣大社明治神宮及別格官  
幣社靖國神社ニ限ル

但シ官幣大社熱田神宮ニ限ル

官幣大社熱田神宮ニ衛士長一人及衛士ヲ置ク

主典及宮掌ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 宮司ハ内務大臣及地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ國家ノ宗祀ニ奉仕シ祭儀ヲ司トリ庶務ヲ管理ス

第三條 權宮司ハ宮司ヲ輔佐シ祭儀及庶務ニ従事ス

第四條 禰宜ハ宮司及權宮司ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ従事ス

第五條 主典及宮掌ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ従事ス

第五條ノ二 衛士長ハ宮司及權宮司ノ指揮監督ヲ承ケ警衛事務ニ従事ス

第五條ノ三 衛士ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ警衛ニ従事ス

第六條 宮司事故アルトキハ權宮司ヲ置ケル神社ニ在リテハ權宮司之ヲ代理シ其ノ他ノ神社ニ在リテハ禰

宜之ヲ代理ス

第七條 宮司及權宮司ハ奏任待遇トシ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ禰宜、主典、宮掌、衛士

長及衛士ハ判任待遇トシ地方長官之ヲ命ス

第七條ノ二 宮司ニシテ十五年以上奏任又ハ奏任待遇以上ノ神官神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ特ニ勅

任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

權宮司ヲ置ク神社ノ宮司ハ前項ノ規定ニ拘ラス勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ハ通シテ十三人ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 官國幣社職員ニハ俸給ヲ支給ス但シ宮司及權宮司ニ在リテハ内務大臣、禰宜、主典及宮掌ニ在リ

九



テハ地方長官ニ於テ名譽職ト爲スコトヲ妨ケス

第九條 官國幣社職員ノ服務、俸給及旅費ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第十條 本令中内務大臣及地方長官ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ行フ

第十一條 本令中内務大臣ノ職權ハ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ拓務大臣之ヲ行ヒ地方長官ノ職權ハ第二條ノ場合ヲ除クノ外朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則

第十二條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本令施行ノ際現ニ官國幣社神職タル者ハ本令ニ依リ各其ノ職ニ命セラレタルモノト看做ス

### ○官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件

(明治三十五年二月十二日  
内務省令第一號)

改正 大正元年一月内務省令第六號、五年六月第七號、七年一月第二五號、昭和二年四月第二〇號、七年一〇月第四三號

官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 主典ノ定員ハ一社ニ付二人以内トス

第二條 (削除)

第三條 特別ノ事由アル神社ニ付テハ地方長官ハ第一條ノ定員外ニ主典ヲ増置スルコトヲ得

第四條 主典ノ現員三人以上ノ神社ニ在テハ當分ノ内現員ノ儘存置スルコトヲ得但退職其ノ他ノ事故ニ依リ減員スルトキハ定員ニ復スルマテ補命スルコトヲ得ス

前條ニ依ル補命ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用スル限ニ在ラス

第五條 熱田神宮宮掌ノ定員ハ十三人以内トシ衛士ノ定員ハ二十九人以内トス

第六條 雇員ハ官司之ヲ命免ス

第七條 (削除)

第八條 第二條及第四條ノ事項ニ關シ本規則施行前内務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ本規則施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第九條 本規則ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス



# ○官幣社處務規則

(明治三十七年一月十八日  
府訓令 第三號)

改正 大正元年十二月府訓令第一六號

官幣社

官幣社處務規則左ノ通心得ヘシ

## 官幣社處務規則

- 第一條 社務ハ宮司ニ於テ各擔任者ヲ指名シ之ヲ處理セシムヘシ  
社務繁多ナル神社ニ在テハ分課ヲ設クヘシ
- 第二條 社務ハ擔任者ニ於テ速ニ處分見込取調ヘ回議ニ付シ宮司ノ決裁ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス
- 第三條 職員出勤ノ際先ツ出勤簿ニ捺印スヘシ  
疾病又ハ事故アリテ出勤シ難キトキハ其事由ヲ具シ宮司ヘ届出ヘシ  
病氣引籠五日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス
- 第四條 忌服ヲ受ケタルトキハ宮司ニ在テハ知事ヘ其他ニ在テハ宮司ヘ届出ヘシ  
除服出仕ハ宮司ニ付テハ知事其他ニ付テハ宮司之ヲ命スヘシ

職員死亡セルトキハ判任待遇以上ノ職員ニ在テハ知事及宮司ヘ其他ニ在テハ宮司ヘ届出ヘシ

### 第五條 (削除)

第六條 重要ナル印章ハ宮司ニ於テ嚴重保管スヘシ

第七條 神殿倉庫等ノ鍵ハ宮司ニ於テ封印ヲ施シ置クヘシ但宮司ニ於テ自ラ保管スルモノハ此限ニ在ラス

第八條 社務所ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

祭神記

由緒記

官私祭書類

神社明細圖書

附攝社末社明細圖書

不動産臺帳(但資金臺帳ニ掲  
ゲタル物ヲ除ク)

附立木調書ノ類

寶物及貴重品臺帳

藏書目錄

祭器具明細帳



神社所有物帳

契約書類綴

法規指令類綴

會計諸帳簿

社務回議綴

社務日記宿直日記類

一社職員錄同履歷書綴

神符大麻守札等員數(製造授與)調帳

前項各號ノ一ニ該當セサルモノト雖モ凡テ從來ノ照査トナリ又ハ參考トナルヘキ圖書書類ハ適當ニ類別保存スヘシ

第九條 必要ニ應シ前條以外ノ簿冊又ハ補助簿等ヲ調製シ物件ノ所在、出納其他各般ノ社務ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條 凡テ簿冊ハ目安ヲ付シ索引ニ便ナラシムヘシ

第十一條 宿直員ハ可成二名以上ヲ以テ之ニ充ツヘシ宿直員一名ハ必ス主典以上ノ職員タルコトヲ要ス宿直員ハ時々境内ヲ巡視シ取締ニ從事スヘシ

事變アルトキハ直チニ之ヲ宮司ニ急報シ若シ其ノ指揮ヲ待ツノ暇ナキトキハ臨機ノ處置ヲ行ヒ其旨直チニ宮司ヘ急報スヘシ

第十二條 神社ニ風火災盜難等アルトキハ直チニ宮司ヨリ大阪府知事ヘ報告スヘシ

第十三條 宮司交替ノ節ハ一社仕來竝ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件明細廉書ヲ以テ引繼クヘシ一切ノ簿冊ハ目錄相添之ヲ引繼クヘシ

土地建物金品證書證券其他一切ノ物件ハ目錄相添簿冊ニ對照シ之ヲ引繼クヘシ引繼ニハ大阪府官吏立會スヘシ

第十四條 前條ノ引繼終リタルトキハ新舊宮司授受ノ證書ヲ作り立會官吏之ニ檢印スヘシ

第十五條 舊任宮司死亡シタルトキハ新任宮司ヘノ引繼ハ禰宜ニ於テ之ヲ行フヘシ未タ新ニ宮司ノ任命ナキトキ又ハ新任宮司著任以前引繼ヲ行フトキハ舊任宮司ハ禰宜ニ對シ引繼ヲ行フヘシ

前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル禰宜ハ新任宮司著任ヲ待チ更ニ新任宮司ヘ引繼クヘシ

本條ノ引繼ハ總テ前二條ニ準シ之ヲ行フモノトス但前項ノ場合ニハ大阪府官吏ハ立會ヲ爲サス其終了ハ(事故アルトキハ事故共)宮司、禰宜連署シ大阪府知事ヘ届出ツヘシ

第十六條 神社ニ於テハ處務細則ヲ設ケ知事ニ報告スヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ



第十七條 明治十三年內務省神社局第五號通達神官事務取扱方明治十一年三月十四日同省番外達宿直人員ノ件明治八年十一月七日教部省甲第十四號達官國幣社々務受渡成規其他本則ニ抵觸スル從前ノ制規ハ廢止セラル但明治十三年該局通達神官事務取扱方第六條但書ノ規定ハ明治三十七年三月三十一日迄其効力ヲ有ス

○府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件 (明治二十七年二月二十八日勅令第二十號)

改正 明治三十三年一月勅令第三九八號、三十五年二月第三二號、四三年九月第三四九號、大正二年二月第七號、四年一月第二〇〇號、九年一月第二號、一五年六月第二四〇號、昭和三年五月第八一號、九年四月第九〇號、一四年三月第五九號

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及郷社並ニ內務大臣ノ指定スル護國神社ニ左ノ神職ヲ置ク

- 社 司 一人
- 社 掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ議定シ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

前項ノ指定ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

- 社 掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ議定シ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ



第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及郷社竝ニ第一條ノ護國神社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ従事ス

第五條 村社以下神社及第二條ノ護國神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 社司及社掌ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ニ於テ氏子總代又ハ崇敬者總代ノ推薦シタル候補者中ヨリ之ヲ補ス但シ氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ候補者ヲ推薦セサルトキ又ハ推薦再回ニ及フモ候補者其ノ任ニ適セスト認メタルトキハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ニ於テ適任者ヲ舉ケテ其ノ職ニ補スヘシ

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第六條ノ二 神社事務ノ掌理ニ付テハ府社及縣社竝ニ第一條ノ護國神社ノ社司ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事朝鮮總督府道知事臺灣總督府州知事臺灣總督府廳長、郷社ノ社司竝ニ村社以下神社及第二條ノ護國神社ノ社掌ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事朝鮮總督府道知事臺灣總督府州知事臺灣總督府廳長樺太廳支廳長北海道廳支廳長府縣支廳長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス

第七條 社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス

第七條ノ二 社司又ハ村社以下神社ノ上席社掌ニシテ二十年以上判任官又ハ判任官ノ待遇以上ノ神官神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ百七十人ヲ限り特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

附 則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

○官國幣社神職職印調製ノ件 (明治三十年四月十三日 内務省訓第三六〇號)

自今官國幣社宮司權宮司ニシテ其職務上調製スヘキ書面ニハ (明治八年太政官第一百十號達) ニ準シ職印ヲ押用セシムヘシ

○府縣社以下神社神職職印調製ノ件 (明治三十年四月十三日 社甲第七號 通牒)

今般官國幣社神職職印ニ關シ別紙ノ通訓令相成候ニ付テハ自今府縣社以下神職ト雖モ其職務上調製スヘキ



書面ニハ(明治八年太政官第一百號達)ニ準シ職印ヲ押用シ差支無之儀ニ候條依命此段及通牒候也  
(別紙略)

### ○官 印 製 式

(明治三十一年八月十二日)  
關 令 第 五 號

明治八年太政官第一百號達ヲ左ノ通改正ス  
公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用キル印章ハ勅任官ハ方九分曲尺奏任官ハ方七分曲尺判任官ハ方六分曲尺トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

### 任 用

### ○官國幣社及神宮神部署神職任用令

(明治三十五年二月十日)  
勅 令 第 二 十 八 號

改正 明治三十六年四月勅令第八六號、四二年七月第一八二號、四四年五月第一七五號、四五年四月第八八號、大正三年九月第一九四號、一〇年三月第五八號、一三年一月第二九五號、一五年七月第二六七號、昭和六年三月第一四號、一一年八月第二五一號

朕官國幣社及神宮神部署神職任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社及神宮神部署神職任用令

第一條 奏任待遇ノ神職ハ神職高等試驗合格ノ者、判任待遇ノ神職ハ神職尋常試驗又ハ神職高等試驗合格ノ者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ神職試驗ヲ受クルコトヲ得

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 禁治産者、準禁治産者



四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條 神職高等試験ハ神職高等試験委員之ヲ施行シ神職尋常試験ハ神職尋常試験委員之ヲ施行ス  
神職高等試験委員ハ主務大臣之ヲ選任シ神職尋常試験委員ハ主務省ニ於テ行フ試験ニ付テハ主務大臣其  
ノ他ニ付テハ地方長官之ヲ選任ス

第四條 試験合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條 試験期日及場所ハ豫メ官報、公報又ハ新聞紙其ノ地便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條 試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

- 一 祭式
- 二 倫理
- 三 國文 作文ハ神職高等試験ニ在リテハ宣命體公文體  
神職尋常試験ニ在リテハ祝詞體公文體
- 四 歴史
- 五 法制 神職高等試験ニ在リテハ現行神社法令及憲法  
神職尋常試験ニ在リテハ現行神社法令
- 六 算術

第六條ノ二 試験ヲ受ケントスル者ハ手数料トシテ神職高等試験ニ在リテハ十圓ヲ、神職尋常試験ニ在リ  
テハ二圓ヲ納付スヘシ

第七條 試験ニ關スル細則ハ試験委員ニ於テ之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ但シ地方廳ニ於テ行フ神職尋  
常試験ニ關スル細則ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス神職高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得  
一 其ノ神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世中ニ於テ之ヲ補佐シ功績顯著ナル者若ハ其ノ相續人ニシテ祭  
式及國典ヲ修メタルモノ

二 高等官又ハ五年以上官務ニ従事シ判任官二等以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモ  
ノ

三 十年以上神職(府縣社以下神  
社神職ヲ除ク)ト爲リ現ニ官國幣社禰宜又ハ神宮神部署ノ神部補若ハ主事補ノ職ニ在  
ル者

四 師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ教員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者

五 神宮皇學館本科卒業ノ者

六 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正ヲ付與シタル者

第九條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス神職尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得  
一 五年以上官務ニ従事シ判任官以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ  
二 現ニ神宮宮掌以上ノ職ニ在ル者



- 三 前條第四號若ハ第五號ニ掲ケタル者又ハ神宮皇學館專科若ハ普通科卒業ノ者
  - 四 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正又ハ一等司業ヲ付與シタル者
  - 五 中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認めタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
  - 六 五年以上神職ト爲リ現ニ社司ノ職ニ在ル者
  - 七 内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者
  - 第十條 三年以上官國幣社又ハ神宮部神署ニ於テ本令ニ依リ任用セラルヘキ神職ヲ勤メ退職シタル者ハ試験ヲ要セス前職同等若ハ其ノ以下ノ神職ニ任用スルコトヲ得
- 奏任待遇ノ神職ニ在リテハ各職同等ト看做シ判任待遇ノ神職ニ在リテハ禰宜神部補及主事補ヲ以テ同等ト看做ス
- 第十一條 五年以上雇員トシテ神宮神部署ニ奉職シタル者ハ試験ヲ要セス神職尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ神部補又ハ主事補ニ任用スルコトヲ得
  - 五年以上雇員トシテ官國幣社ニ奉職シタル者ハ試験ヲ要セス神職尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ主典又ハ宮掌ニ任用スルコトヲ得
  - 前項ニ依リ主典又ハ宮掌ニ任用セラレ三年以上奉職シタル者ハ神職尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ禰宜ニ任用スルコトヲ得

用スルコトヲ得

- 第十二條 神職試験ヲ受クル資格ナキ者ニハ前四條ノ規定ヲ適用セス
- 第十三條 本令中主務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣其ノ他ニ關シテハ内務大臣之ヲ行フ
- 朝鮮ニ於テハ本令中主務大臣ニ屬スル職權ハ朝鮮總督之ヲ行ヒ第三條中主務省トアルハ朝鮮總督府、第九條中文部大臣トアルハ文部大臣又ハ朝鮮總督トシ朝鮮總督ノ選任スル神職高等試験委員ハ詮衡ニ限リ之ヲ行フ

第十三條ノ二 本令中地方長官ニ屬スル職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則

第十四條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

神宮大廳及曆頒布ノ事務ニ從事シタル者ハ本令施行ノ際ニ限り主事ニ在リテハ高等試験委員、主事補ニ在リテハ尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ主事主事補ニ任用スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル者ニ之ヲ適用セス

神部署ノ在職年數ハ第十條及第十一條ノ適用ニ付テハ之ヲ神宮神部署ノ在職年數ニ通算ス



# ○神職高等試験施行細則

(大正十四年七月一日)  
(内務省告示第百十七號)

二六

明治三十五年二月勅令第二十八號官國幣社及神宮神部署神職任用令第七條ニ依リ神職高等試験委員ニ於テ神職高等試験施行細則ヲ左ノ通定メタリ

## 神職高等試験施行細則

第一條 官國幣社及神宮神部署神職任用令ニ依ル高等試験ハ毎年一回東京ニ於テ之ヲ行フ

第二條 試験ヲ受ケムトスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ公告ノ出願期間内ニ高等試験委員長ニ提出スヘシ

### 一、履歴書(第二號書式)

二、官國幣社及神宮神部署神職任用令第二條ノ規定ニ該當スル者ナルコトヲ證スル市町村長ノ證明書

三、寫真手札形トシ出願前一年内ニ帽子ノ類ヲ著ケズシテ撮影シタ  
ルモノニシテ裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自ラ記載スヘシ

第三條 試験ヲ分チテ筆記試験、實地試験(祭式ニ限ル)及口述試験(倫理及法)トス

口述試験ハ筆記試験及實地試験ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第四條 試験ノ合格者ヲ定ムル方法ハ高等試験委員ノ議定スル所ニ依ル

第五條 試験ノ合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第六條 受験者試験當日開試ノ時間迄ニ出席セス又ハ試験半途ニテ休止シタルトキハ其ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ停止ス試験後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第八條 試験ニ關シ本則ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ高等試験委員長之ヲ定ム

## 附 則

本則ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 第一號書式

神職高等試験受験願書式(用紙美濃紙)

本籍 何府縣郡市町村何番地

戸主又ハ某男兄弟

現住所 何府縣郡市町村何番地(何某方)

(氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ)

氏 名

年 月 日生



私儀神職高等試験相受ケ度別紙履歷書證明書及寫真相添へ此段御願ニ及ビ候也

年 月 日

氏

名 印

神職高等試験委員長 氏 名宛

東京市内又ハ其ノ附近ニ現住所ヲ有セサル者ハ高等試験委員長ヨリ發スル通知書ヲ受ケ取ルヘキ場所ヲ必ス東京市内又ハ其ノ附近ニ定メ左ノ書式ニ依リ追記シ又現住所若クハ通知書ヲ送付スヘキ宿所ヲ轉シタルトキハ其ノ時々直ニ届出ツヘシ

追テ高等試験委員長ヨリ發スル通知書ハ左ノ所ニ御發送被成下度候

東京市何區何町(何丁目)何番地(何某方)

第二號書式

履 歷 書 (用紙美濃紙)

氏

名

學 事

一、何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ科目大略何々

一、何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス

職 業

一、何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何々歷任等

賞 罰



# ○神職尋常試験施行細則

(昭和七年二月二十四日)  
(大阪府告示第百二十號)

三〇

神職尋常試験委員ニ於テ神職尋常試験施行細則左ノ通制定シタリ

## 神職尋常試験施行細則

**第一條** 神職尋常試験ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號様式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験期日ノ前日迄ニ神職尋常試験委員長ニ提出スヘシ

一 履歷書(第二號様式)

二 明治三十五年勅令第二十八號官國幣社及神宮神部署神職任用令第二條第一號乃至第三號ニ該當セサルコトヲ證スル市區町村長ノ證明書

三 寫眞(手札形トシ出願前一年内ニ帽子ヲ著ケスシテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ記載スヘシ)

前項受験志願者ニハ其ノ出願順ニ依リ受験票ヲ交付ス

**第二條** 試験ノ日時及場所ハ豫メ大阪府公報ヲ以テ告示ス

**第三條** 試験ヲ分チテ筆記試験、實地試験及口述試験トス

**第四條** 受験者ハ試験當日開始ノ時間迄ニ出席セス又ハ試験半途ニテ休止シタルトキハ其ノ試験ヲ受クル

コトヲ得ス

**第五條** 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試験ヲ停止ス試験後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

**第六條** 試験ノ合格ヲ定ムル方法ハ尋常試験委員ノ議定スル所ニ依ル

**第七條** 試験ノ合格證書ハ第三號様式ニ依ル

**第八條** 試験合格者ノ氏名ハ大阪府公報ヲ以テ告示ス

**第九條** 本則ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ尋常試験委員長之ヲ定ム

## 附 則

本則ハ昭和七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年三月十六日制定神職尋常試験細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

## 第一號様式

神職尋常試験受験願書

收入印紙  
貳圓貼附  
ノコト

本籍地  
現住所



戸主又ハ戸主トノ續柄

氏

名

生 年 月 日

(振假名ヲ附ス)

三二

私儀神職尋常試験相受度別紙履歷書及證明書竝ニ寫真相添ヘ此段相願候也

年 月 日

右

氏

名 ㊦

神職尋常試験委員長宛

第二號様式

履 歷 書

本籍地  
現住所

氏

名

生 年 月 日

一、學 事

一、職 業  
一、兵 役  
一、賞 罰  
右之通相違無之候也

年 月 日

右

氏

名 ㊦

第三號様式

合 格 證 書

何 府 縣

何

某

何年何月執行ノ神職尋常試験ニ合格セシコトヲ證ス

年 月 日

何年何月何日生

大阪府神職尋常試験委員長 氏

名 ㊦

三三



○神職高等試験並神職尋常試験手数料納付ニ關スル件

(大正十五年八月七日内務省令第四十號)

神職高等試験並神職尋常試験手数料納付ニ關スル件左ノ通定ム

神職高等試験並神職尋常試験手数料ハ收入印紙ヲ用キ受験願書ニ貼付スヘシ其既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○府社縣社以下神社神職任用規則

(明治三十五年二月十八日  
内務省令第四號)

改正 明治四二年七月内務省令第一六號、四三年六月第二五號、大正元年一月第三號、

○年二月第二號、昭和二年四月第一九號

府社縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

府社縣社以下神社神職任用規則

第一條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ社司社掌試験ニ及第シタル者ニアラサレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

官國幣社神職試験ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職及神職タリシ者ハ試験ヲ要セス社司社掌ニ補スルコトヲ得

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ複權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 禁治產者準禁治產者



四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條 地方廳ニ社司社掌試驗委員長一名及社司社掌試驗委員五名ヲ置キ社司社掌ノ試驗ヲ行ハシム

第四條 社司社掌試驗委員長及社司社掌試驗委員ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ選任スヘシ

第五條 社司社掌試驗委員ハ此規則ニ依リ試驗ヲ施行シ試驗委員長ヨリ其ノ成績ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申スヘシ

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ

第七條 試驗ヲ施行スルトキハ豫メ其ノ試驗期日及場所等ハ官報公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第八條 社司社掌ノ試驗科目ハ左ノ如シ

- 一 祭式
- 二 倫理
- 三 國文 作文ハ祝詞體公文體
- 四 國史
- 五 法制 現行神社法令
- 六 算術

第九條 試驗問題ハ社司社掌試驗委員之ヲ定ム

第十條 此規則施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 左ニ掲クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

- 一 官國幣社及神宮神部署神職任用令第九條一號二號三號五號ニ掲クル者
- 二 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階ヲ附與シタル者
- 三 判任待遇以上ノ職ニ在リシ者ニシテ祝詞作文祭式ヲ修メタル者
- 四 内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者
- 五 沖繩縣ニ在リテハ大夫、祝部、權祝部及宮童ノ職ニ在リシ者又ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタル者

第十二條 神社ニ神職ノ闕員アルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ三十日以内ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ但シ現ニ其ノ管内ニ奉職スル者ニ在テハ履歷書及資格證明書ヲ省クコトヲ得

北海道廳長官、府縣知事ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ此場合ニ於テハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ前項ノ例ニ依リ之カ推薦ヲ爲スヘシ



第十三條 (削除)

第十四條 (削除)

附 則

第十五條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ施行ス

第十六條 本令施行前ヨリ現ニ府社縣社以下神社ノ神職タル者ハ本令ノ施行ニ依リ神職タルノ資格ヲ失フ

コトナシ

第十七條 明治二十八年内務省令第十號同年内務省訓令第六五六號及同年内務省訓令第十六號ハ本令施行

ノ日ヨリ廢止ス

### ○社司社掌試験施行細則

(明治四十年十月七日)  
(大阪府令第六十七號)

改正 昭和二年二月府令第一三號、五年十月第六四號

第一條 社司社掌ノ試験ヲ受ケントスル者ハ受験願書(別記第一號様式)ニ履歷書(別記第二號様式)及府社縣社以下神社神職任用規則第二條第一號乃至第三號ニ該當セザルコトヲ記載シタル市區町村長ノ證明書ヲ添ヘ試験期日ノ前日迄ニ當廳ニ差出スベシ

前項受験者ニハ其ノ出願順ニ依リ受験票ヲ交付ス

第二條 試験ノ日時及場所ハ豫メ大阪府公報ヲ以テ告示ス

第三條 試験ヲ分チテ筆記試験、口述試験及實地試験ノ三トス

第四條 試験中不正ノ行爲アリト認メタルトキ又ハ受験者心得ニ違背シ若ハ試験委員ノ指揮ニ從ハザル者アルトキハ試験委員ハ其ノ者ニ對シ退場ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ退場ヲ命ゼラレタル者ニ對シテハ其ノ年度ノ受験ヲ停止スルコトアルベシ

第五條 試験合格者ニハ合格證書(別記第三號様式)ヲ附與ス

第六條 試験合格者ノ氏名ハ大阪府公報ヲ以テ之ヲ告示ス

第七條 本令ニ定ムルモノ、外必要ナル事項ハ試験委員長之ヲ定ム



附 則

本令ハ昭和五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

社 司 社 掌 受 驗 願

本 籍 地  
現 住 所

戸主又ハ戸主トノ續柄

(振假名ヲ附ス)

氏

生 年 月 日

名

年 月 日

私儀社司社掌試験相受度別紙履歴書及證明書相添へ此段奉願候也

右

氏

名 ㊦

大阪府知事宛

第二號様式

履 歴 書

本 籍 地  
現 住 所

氏

生 年 月 日

名

一、 學 業

業

一、 兵 務

務

一、 賞 罰

罰

一、 賞 罰

賞

右之通相違無之候也



年 月 日

四二

第三號様式

合 格 證 書

何 府 縣

何

某

何年何月何日生

昭和何年大阪府ニ於テ執行シタル社司社掌試験ニ合格セシコトヲ證ス

昭和 年 府 印 月 日



大 阪 府

(第 號)

### 官等、俸給、旅費、諸給

#### ○官國幣社神職俸給規則

(大正十年十二月十七日  
内務省令第二十七號)

改正 昭和二年四月内務省令第二二號、昭和六年六月第一〇號、七年一〇月第四四號

明治四十一年二月内務省令第二號官國幣社神職俸給規則左ノ通改正ス

#### 官國幣社神職俸給規則

第一條 官司、權官司ノ俸給ハ年俸トシ別表甲號ニ依リ禰宜、主典、宮掌、衛士長ノ俸給ハ月俸トシ別表乙號ニ依ル

第二條 官司、權官司ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ六百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ官司ノ在職年數ニシテ權官司ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ權官司ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

第三條 禰宜、主典、宮掌、衛士長ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ニハ特ニ月額三十五圓以內ヲ加給スルコトヲ得

四三



前項ノ規定ノ適用ニ付テハ官國幣社神職ノ在職年數ニシテ現職ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現職ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

第三條ノ二 衛士ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス

衛士ノ増俸ハ五圓ヲ超ユルコトヲ得ス

衛士ニシテ五年以上最高額ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ニハ特ニ月額二十圓以内ヲ加給スルコトヲ得特別ノ技能ヲ有スル衛士ニハ一月十圓以内ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第四條 名譽職タル官國幣社神職ニハ報酬ヲ給スルコトヲ得

第五條 俸給支給方ハ宮司、權宮司ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ禰宜、主典、宮掌、衛士長、衛士ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル月額又ハ年額ニテ報酬ヲ支給スル場合亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸年額及年手當(臨時手當ヲ含ム)ノ合算額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ改正級俸各所定ノ最低額ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

前二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ一級俸ノ額ヲ超過スルトキハ第二條第三條ノ適用ニ就テハ之ヲ一級俸ト看做ス

附 則

(昭和六年六月内務省令第一〇號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年額千二百圓以上ノ俸給ヲ受クル宮司、權宮司ハ本令ニ依リ當該順位ノ級俸ノ俸給ヲ受ケ年額千百圓以下ノ俸給ヲ受クル宮司、權宮司ハ定額ノ改正ニ拘ラズ從前ノ俸給ヲ受ク本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給ヲ受クル禰宜、主典ハ各其ノ相當下欄俸給ヲ受ク

從前ノ俸給(月額)	改正俸給(月額)
百六十圓	百四十八圓
百三十五圓	百二十七圓
百三十圓	百二十五圓
百十五圓	百十圓
百圓	九十圓

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ其ノ十分ノ九ノ年功加俸ヲ受ク但シ所定ノ最高







## ○官幣社神職以下旅行及旅費ニ關スル規程

(明治四十四年三月  
府訓第五十四號)

改正 大正十年三月訓地第八八號、昭和五年八月訓兵第三九二號

四八

- 第一條 官幣社神職ノ出張ハ宮司ニ在リテハ知事ノ許可ヲ受ケ禰宜、主典、雇員ニ在リテハ宮司之ヲ命スルモノトス但シ宮司ノ出張ニシテ即日歸社スルモノハ許可ヲ受クルヲ要セス
- 私事旅行ハ宮司ニ在リテハ知事ノ許可ヲ受ケ禰宜、主典、雇員ニ在リテハ宮司ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ハ宮司ニ在リテハ知事ニ禰宜、主典、雇員ニ在リテハ宮司ニ届出ツヘシ
- 一 賜暇中ノ私事旅行
  - 二 忌引中ノ歸省
  - 三 父母、病氣看護ノ爲歸省
- 第二條 前條ノ許可申請及届書ニハ事由、出發月日、日數、地名等ヲ詳記スヘキモノトス
- 第三條 管内へ出張スル者ノ車馬賃、日當、宿泊料ハ別表甲號ニ依ル定額ヲ、管外へ出張スル者ニハ別表乙號ニ依ル定額ヲ支給ス
- 第四條 移轉料ハ別表丙號ニ依ル定額ヲ支給ス
- 第五條 宮司、禰宜、主典赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料

及家族移轉料ヲ支給ス

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ該當スル金額トス但シ十二歳未満ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス

赴任者赴任後一ケ年以内ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セサルトキハ家族移轉料ヲ支給セス

管内ノ神社ニ赴任スル場合ニ於テハ赴任手當及家族移轉料ヲ支給セス

赴任旅費ハ本人任地到着ノ後支給スルモノトス

第六條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲メ要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十軒水路旅行ハ百海里陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未満ノ端數ハ之ヲ一日トス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第七條 陸路六里未満鐵道七十八軒未満水路三十海里未満ノ旅行ニ在リテハ社務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ十三軒水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト見做シ支給額

四九



ヲ算定スルモノトス

第八條 鐵道賃及船賃ハ左ノ各號ニ依リ車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

鐵道賃ハ左ノ各號ニ從ヒ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス

- 一 宮司ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
- 二 禰宜、主典ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乗車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃

三 雇員ニ在リテハ三等ノ運賃

四 運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ宮司、禰宜、主典共上級ノ運賃其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乗車ニ要スル運賃

五 八十五軒以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金ヲ徴セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

六 百七十軒以上特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ特別急行料金

七 特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規程ニ拘ラス其ノ乗車ニ要スル急行料金

第九條 船賃ハ旅客運賃（通行稅及船賃ヲ含ム）及急行料金ニ依リ鐵道賃ノ例ニ準シ之ヲ支給ス

鐵道五軒未滿水路二海里未滿陸路一里未滿ノ旅行ニ在リテハ宿泊シタル場合ヲ除ク外日當ヲ支給

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之レテ施行ス  
大正七年十一月大阪府訓令第二十二號ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令中鐵道距離ニ附スル規定ハ昭和五年四月一日ヨリ其ノ他ノ規定ハ昭和五年七月十五日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

別 表

甲 號（管内）

區 分	車馬賃一里ニ付	日當一日ニ付	宿泊料一夜ニ付
勅任待遇ヲ受クル宮司	八十錢	五圓	七圓
宮 司	六十錢	三圓	四圓
禰 宜、主 典	五十錢	一圓六十錢	二圓四十錢



別  
乙  
表  
號  
(管外)

備員	雇員
三十錢	四十錢
八十錢	一圓二十錢
一圓六十錢	二圓

備員	雇員	關宜、主典	官司	勅任ノ待遇ヲ受クル官司	區分
三十五錢	五十錢	六十錢	七十錢	一圓	車馬賃一里ニ付
一圓二十錢	一圓七十錢	二圓	四圓二十錢	六圓八十錢	日當一日ニ付
二圓四十錢	二圓九十錢	三圓八十錢	五圓九十錢	十圓	宿泊料一夜ニ付

別  
丙  
表  
號  
(移轉料)

關宜、主典	官司	勅任待遇ヲ受クル官司	區分
九十圓	百三十五圓	百八十五圓	管外ヨリ赴任
二十七圓	四十五圓	六十三圓	管内赴任



### ○社司社掌俸給其他給與規則

(大正十年九月二十九日)  
(大阪府令第八十四號)

改正 大正十一年一月府令第四號、昭和二年二月第一六號、六年一二月第一二〇號

#### 社司社掌俸給其他給與規則

第一條 社司、社掌ニハ其ノ神社ヨリ俸給又ハ手當ヲ支給ス

神職ニシテ他ノ神社ノ社司、社掌ヲ兼務スルトキハ兼務神社ヨリ手當ヲ支給スルコトヲ得

第二條 社司、社掌ノ月俸ハ別表ニ依ル

第三條 社司ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ成績優良ナル者ハ特ニ月額二百十圓迄ヲ支給スルコトヲ得  
社掌ニシテ前項ニ該當スル者ハ特ニ月額二百圓迄ヲ支給スルコトヲ得

第四條 社司、社掌ノ俸給ハ五級俸未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ラズ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得  
但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ズ

第五條 社司、社掌ニシテ五年以上同一ノ神社ニ在職シ成績優良ナル者ハ其ノ神社ヨリ年功加俸ヲ支給スルコトヲ得

年功加俸ハ社司ニ在リテハ年額六十圓以内社掌ニ在リテハ年額三十六圓以内トシ更ニ勤続五年ヲ加フル  
毎ニ社司ニ在リテハ年額三十六圓以内社掌ニ在リテハ年額二十四圓以内ヲ加給スルコトヲ得  
年功加俸ヲ受クル者ニシテ成績優良ナラズト認メタルトキハ加俸ノ支給ヲ停止スルコトアルベシ

第六條 社司、社掌ノ俸給額及年功加俸ノ支給額ハ其ノ神社ヨリ知事ニ具申スベシ但シ市域ニ在ル郷社以下  
下神社ニ在リテハ市長ヨリ知事ニ之ヲ具申スベシ支給額ヲ増減セントスル場合亦同ジ

第七條 神社所有ノ舍宅ニ居住セザル社司、社掌ニ對シテハ其ノ神社ヨリ住宅料ヲ支給スルコトヲ得  
住宅料ノ支給額竝ニ支給方法ハ神社ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クベシ但シ市域ニ在ル郷社以下神社  
ニ在リテハ市長ノ認可ヲ受クベシ

第八條 社司、社掌以下職員ニシテ社務ノ爲旅行スルトキハ其ノ神社ヨリ旅費ヲ支給ス  
前項ノ旅費額竝ニ支給方法ハ神社ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クベシ但シ市域ニ在ル郷社以下神社ニ  
在リテハ市長ノ認可ヲ受クベシ

第九條 社司、社掌ノ賞與金及慰勞金ノ支給額ハ其ノ神社ヨリ知事ニ具申スベシ但シ市域ニ在ル郷社以下  
神社ニ在リテハ市長ニ具申スベシ



第十條 俸給ハ新任、増俸、減俸トモ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ計算ス

第十一條 轉任者ノ俸給ハ發令ノ當日迄ハ前任神社ニ於テ支給シ翌日以降ノ分ハ新任神社ニ於テ支給スルモノトス

第十二條 退職、休職、廢職及死亡ノトキハ當月分ノ俸給全額ヲ其ノ際支給スルモノトス但シ休職給ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラズ

懲戒免職ニ處セラレタル者ノ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ計算ス

第十三條 病氣ノ爲執務セザルコト九十日ヲ超エ及私事故障ニ依リ執務セザルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ズ

第十四條 俸給ヲ支給スルニ當リ錢位未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

第十五條 年功加俸ノ支給、増減又ハ停止ハ發令ノ當月ヨリ起算シ月割ヲ以テ計算ス

第十六條 年額ニ依リ支給スル兼務手當ハ之ヲ十二分シ月割ヲ以テ計算ス

第十七條 兼務手當ノ支給ニ付テハ第六條第十條第十二條乃至第十四條及第十八條ノ規定ヲ適用ス

第十八條 俸給及年功加俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

附 則

本令ハ昭和六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給ヲ受クル社司、社掌ハ各其ノ相當下欄ノ俸給ヲ受ク

從前ノ俸給(月額)	改正俸給(月額)
二百四十圓	二百十五圓
二百二十圓	二百圓
二百圓	百八十五圓
百八十圓	百六十七圓
百六十圓	百四十八圓
百四十五圓	百三十五圓
百三十圓	百二十三圓
百二十圓	百十五圓
百十圓	百七圓
百圓	九十圓



別表

社	社	職別	級別
掌	司	一級	一六〇円
一四五	一三〇円	二級	一一〇円
一二〇	一一〇円	三級	九五円
一〇五	八五円	四級	八五円
九〇	七五円	五級	七五円
八〇	六五円	六級	六五円
七〇	五五円	七級	五五円
六〇	四五円	八級	四五円
五〇	三五円	九級	三五円
四〇		十級	
三〇			

服 務

○官吏服務紀律

(明治二十年七月三十日  
勅令第三十九號)

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

官 吏 服 務 紀 律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス  
官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
- 第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
- 裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得



第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其響應ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳ノ諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得

ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラ

サル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レズ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス



## ○官國幣社以下神社神職奉務規則

(大正二年四月二十一日)  
內務省訓令第九號

六二

官國幣社以下神社神職

官國幣社以下神社神職奉務規則左ノ通定メ公布ノ日ヨリ施行ス

官國幣社以下神社神職奉務規則

第一條 神職ハ國家ノ禮典ニ則リ國家ノ宗祀ニ從フヘキ職司ナルヲ以テ平素國典ヲ修メ國體ヲ辨シ操行ヲ正シクシテ其ノ本務ヲ盡スヘシ

第二條 祭祀ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬ヲ旨トシ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 祭典ハ制規ニ據リ之ヲ行ヒ非常ノ事故アル場合ノ外濫ニ其ノ次第ヲ變更シ又ハ其ノ時間ヲ伸縮スヘカラス但シ古來ノ儀式ニ遵ヒ神社慣行ノ神賑等ハ適宜之ヲ行フコトヲ得

第四條 臨時祭ヲ行ハムトスルトキハ所轄警察官署ニ通知シ官國幣社ニ在リテハ更ニ地方長官ニ申報スヘシ

第五條 神札ハ氏子又ハ崇敬者以下ノ者ニ之ヲ配授スルコトヲ得ス但シ其ノ請求ニ依リ之ヲ授與スルヲ妨ケス

第六條 神職ハ已ムヲ得サル場合ノ外其ノ奉仕スル神社所在地ノ市町村内ニ居住スヘシ

第七條 神職ハ社殿及境内ノ清潔修理ニ注意シ神社ノ尊嚴ヲ保持スルニ努ムヘシ

第八條 火災盜難等ノ豫防ニ付テハ周到嚴密ヲ期シ豫メ取締方法ヲ定メ常ニ警戒注意ヲ爲スヘシ

第九條 神社所藏ノ寶物、貴重品、古文書等ニ付テハ格護ノ方法ヲ設ケ常ニ之カ整理保存ニ注意スヘシ

第十條 神職ハ神社金穀ノ出納及財産ノ管理ニ關シ平素其ノ會計收支ヲ明確ニシ苟モ公私混淆ノ嫌アルヘカラス

第十一條 神職ハ常ニ境内ノ樹木ニ付森嚴ナル風致ヲ保ツニ努メ殊ニ其ノ所屬山林ニ付テハ保護植栽ヲ懈ルヘカラス

六三



○神官ハ葬儀ニ關係セサルノ件

(明治十五年一月二十四日  
内務省達丁第一號)

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事但府縣社以下(神官)ハ當分從前  
之通

分 限、懲 戒

○神宮司廳、神宮神部署及官國幣社以下神社判

任以上ノ待遇職員ノ休職ニ關スル件

(大正四年二月二十二日  
勅令第十三號)

改正 大正六年三月勅令第二九號、一〇年一二月第四七五號、昭和二年三月第二八號

朕神宮神部署職員及神宮衛士長衛士副長衛士並官國幣社職員ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ  
ム

第一條 神宮司廳、神宮神部署及官國幣社以下神社判任以上ノ待遇職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休  
職ヲ命スルコトヲ得

- 一 懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
- 二 刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ
- 三 事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ
- 四 定員ノ改正ニ依リ過員ヲ生シタルトキ
- 五 戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキ



前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在リテハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ一年トシ第五號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス

第二條 前條第一項第三號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス

第三條 休職者ハ其ノ本職ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職者ト異ナルコトナシ

第一條第一項第三號、第四號又ハ第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得

第四條 休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得

第五條 休職ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ内務大臣、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ内務大臣樺太廳長官北海道廳長官府縣知事又ハ神宮大官司之ヲ命ス其ノ復職ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ニ付テハ陸軍大臣及海軍大臣、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ

### ○官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

(明治四十年五月一日  
勅令第百七十七號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス



# ○文官懲戒令

(明治三十二年三月二十八日)  
勅令第六十三號

六八

改正 明治三十二年五月勅令第二一號、三十四年一月第二一六號、三十八年一月第二七九號、  
四〇年四月第一〇七號、四二年二月第五號、四三年九月第四〇四號、大正八年四月第  
九四號、九年五月第一四四號、一一年三月第一二〇號、一三年一月第四六四號  
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

## 第一章 總則

第一條 親任式ヲ以テ敘任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲  
戒ヲ受クルコトナシ

第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

- 一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
  - 二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ
- 第三條 懲戒ハ左ノ如シ

- 一 免官

二 減俸

三 譴責

第四條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員  
會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ  
譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條 懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス  
懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒  
委員會ノ開會ヲ停止ス

## 第二章 懲戒委員會

以下省略



祭祀

○官國幣社以下神社祭祀令

(大正三年一月二十六日勅令第十號)

改正 大正四年一月勅令第一九九號、昭和二年一〇月第三一一號、一四年三月第五八號

朕官國幣社以下神社祭祀令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社以下神社祭祀令

第一條 官國幣社以下ノ祭祀ハ大祭中祭及小祭トス

第二條 左ニ掲クル祭祀ハ之ヲ大祭トス

- 祈年祭
- 新嘗祭
- 例祭
- 遷座祭
- 臨時奉幣祭

前項ノ外別格官幣社靖國神社ノ合祀祭並ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ハ之ヲ大祭トス

第三條 左ニ掲クル祭祀ハ之ヲ中祭トス

- 歲旦祭
- 元始祭
- 紀元節祭
- 天長節祭
- 明治節祭

神社ニ特別ノ由緒アル祭祀

第四條 大祭及中祭以外ノ祭祀ハ之ヲ小祭トス

第五條 新ニ小祭ヲ定ムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 喪ニ在ル者ハ祭祀ニ奉仕シ又ハ參列スルロトヲ得ス但シ除服セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 祭式及齋戒ニ關スル規程ハ主務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第八條 本令施行ノ期日ハ內務大臣之ヲ定ム(大正三年三月內務省令第二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

第九條 地方ノ狀況其ノ他特別ノ事情アル神社ニ於テハ當分ノ内仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得



○即位禮及大嘗祭ノ當日官國幣社以下神社ニ於テ  
行フヘキ祭祀ニ關スル件

(大正四年七月五日  
勅令第百九號)

朕即位禮及大嘗祭ノ當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
即位禮當日官國幣社以下神社ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス  
大嘗祭ヲ行フ年ニハ官國幣社以下神社ニ於テ新嘗祭ヲ行ハス大嘗祭當日祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ大祭ト  
ス

○立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フ

ヘキ祭祀ニ關スル件

(大正五年十月二十五日  
勅令第百三十一號)

朕立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○神宮竝官國幣社以下神社ニ於テ行フ恒例式

改正 昭和三年七月第八號

(大正三年三月二十七日  
內務省訓令第二號)

神宮竝官國幣社以下神社ニ於テ恒例トシテ行フ式左ノ通定メ大正三年四月一日ヨリ施行ス

第一條 神宮ニ於テ恒例トシテ左ノ式ヲ行フ

- 春季皇靈祭遙拜
- 神武天皇祭遙拜
- 秋季皇靈祭遙拜
- 大正天皇祭遙拜
- 大 祓

第二條 官國幣社以下神社ニ於テ恒例トシテ左ノ式ヲ行フ

- 春季皇靈祭遙拜
- 神武天皇祭遙拜
- 秋季皇靈祭遙拜
- 神嘗祭遙拜
- 大正天皇祭遙拜
- 大 祓



○官國幣社以下神社祭式

(大正三年三月二十七日  
内務省令第四號)

七四

改正 昭和二年一〇月内務省令第四四號、一〇年三月第一五號、一三年四月第一五號  
官國幣社以下神社祭式左ノ通定メ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一 官國幣社祭式

一 大祭式

祈年祭新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次幣帛供進使參進 是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次幣帛供進使被所ニ著ク

次修 祓 先御幣物次幣帛  
供進使及隨員

次幣帛供進使所定ノ座ニ著ク

次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク 幣帛供進使  
隨員副フ

次宮司諸事辨備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次宮司御屏ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次禰宜以下神饌ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク

案ハ豫メ便宜  
ノ所ニ設ク

次宮司御幣物ヲ奉ル

次幣帛供進使祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮 玉串ハ隨員  
之ヲ附ス

次幣帛供進使隨員拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮 玉串ハ主典  
之ヲ附ス

次權宮司若クハ禰宜以下拜禮

次權宮司若クハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス 此間奏樂

次禰宜以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御屏ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次宮司祭儀畢レル由ヲ幣帛供進使ニ申ス



次各退出

本殿遷座祭

遷座ノ儀

當日早且假殿本殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下假殿所定ノ座ニ著ク

次内務省高等官及地方高等官假殿所定ノ座ニ著ク

是ヨリ先手水及  
修祓ノ儀アリ

次地方長官參進隨員副從

是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次地方長官祓所ニ著ク

次修 祓

次地方長官假殿所定ノ座ニ著ク

次宮司諸事辨備セル由ヲ地方長官ニ申ス

次宮司假殿ノ御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス

此間奏樂

次地方長官祝詞ヲ奏ス

次宮司殿内ニ參進シ諸員各其ノ位置ニ列立ス

次遷御

此間奏樂  
警 蹕

其ノ儀地方長官前行宮司奉戴諸員前後陣ニ奉仕シ内務省高等官及地方高等官供奉ス

次入御

此間奏樂  
警 蹕

是ヨリ先權宮司若ハ禰宜本殿ノ御扉ヲ開ク

次宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次地方長官祝詞ヲ奏ス

次地方長官拜禮 隨員拜禮

次内務省高等官拜禮

次地方高等官拜禮

次宮司拜禮 權宮司若ハ禰宜以下拜禮

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク

此間奏樂

次宮司祭儀畢レル由ヲ地方長官ニ申ス

次各退出

幣帛供進ノ儀

當日早且社殿ヲ裝飾ス



時刻官司以下所定ノ座ニ著ク

次内務省高等官及地方高等官所定ノ座ニ著ク

是ヨリ先手水及  
修祓ノ儀アリ

次地方長官參進隨員副從

次地方長官祓所ニ著ク

次修 祓 先御幣物次地  
方長官及隨員

次地方長官所定ノ座ニ著ク

地方長官  
隨員副從

次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク

次宮司諸事辨備セル由ヲ地方長官ニ申ス

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次禰宜以下神僕ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

案ハ豫メ便宜  
ノ所ニ設ク

次地方長官隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク

次宮司御幣物ヲ奉ル

次地方長官祝詞ヲ奏ス

次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮

次地方長官隨員拜禮

次内務省高等官玉串ヲ奉リテ拜禮

次地方高等官玉串ヲ奉リテ拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若ハ禰宜以下拜禮

次權宮司若ハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス

次禰宜以下神僕ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク 此間奏樂

次宮司祭儀畢レル由ヲ地方長官ニ申ス

次各退出

遷座ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合

當日早旦假殿本殿ヲ裝飾ス

時刻官司以下假殿所定ノ座ニ著ク

次内務省高等官及地方高等官假殿所定ノ座ニ著ク

是ヨリ先手水及  
修祓ノ儀アリ

次地方長官參進隨員副從

是ヨリ先手  
水ノ儀アリ



次 地方長官被所ニ著ク  
 次修 祓 先御幣物次地  
 次 地方長官假殿所定ノ座ニ著ク 方地官及隨員  
 次 御幣物辛櫃ヲ本殿便宜ノ所ニ置ク 地方長官  
 次 宮司諸事辨備セル由ヲ地方長官ニ申ス 隨員副フ  
 次 宮司假殿ノ御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂  
 次 地方長官祝詞ヲ奏ス  
 次 宮司殿内ニ參進シ諸員各其ノ位置ニ列立ス  
 次 遷 御 此間奏樂  
 其ノ儀地方長官前行宮司奉戴諸員前後陣ニ奉仕シ内務高等官及地方高等官供奉ス  
 次 入 御 此間奏樂  
 是ヨリ先權宮司若ハ禰宜本殿ノ御扉ヲ開ク  
 次 宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク  
 次 地方長官祝詞ヲ奏ス  
 次 禰宜以下神僕ヲ供ス 此間奏樂

案ハ豫メ便宜  
 ノ所ニ設ク

次 宮司祝詞ヲ奏ス  
 次 地方長官隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク  
 次 宮司御幣物ヲ奉ル  
 次 地方長官祝詞ヲ奏ス  
 次 地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮  
 次 地方長官隨員拜禮  
 次 内務省高等官玉串ヲ奉リテ拜禮  
 次 地方高等官玉串ヲ奉リテ拜禮  
 次 宮司玉串ヲ奉リテ拜禮  
 次 權宮司若ハ禰宜以下拜禮  
 次 權宮司若ハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス  
 次 禰宜以下神僕ヲ撤ス 此間奏樂  
 次 宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク 此間奏樂  
 次 宮司祭儀畢レル由ヲ地方長官ニ申ス  
 次 各退出



假殿遷座祭

當日早且本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下本殿所定ノ座ニ著ク

次内務省高等官及地方高等官本殿所定ノ座ニ著ク

是ヨリ先手水及  
修祓ノ儀アリ

次地方長官參進隨員副從

是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次地方長官祓所ニ著ク

次修 祓

次地方長官本殿所定ノ座ニ著ク

次宮司諸事辨備セル由ヲ地方長官ニ申ス

次宮司本殿ノ御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次地方長官祝詞ヲ奏ス

次宮司殿内ニ參進シ諸員各其ノ位置ニ列立ス

次遷 御 此間奏樂

警 蹕

其ノ儀地方長官前行宮司奉戴諸員前後陣ニ奉仕シ内務省高等官及地方高等官供奉ス

次入 御 此間奏樂

警 蹕

是ヨリ先權宮司若ハ禰宜假殿ノ御扉ヲ開ク

次宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次地方長官祝詞ヲ奏ス

次禰宜以下神饌ヲ供ス此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮

次地方長官隨員拜禮

次内務省高等官玉串ヲ奉リテ拜禮

次地方高等官玉串ヲ奉リテ拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若ハ禰宜以下拜禮

次禰宜以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク 此間奏樂

次宮司祭儀畢レル由ヲ地方長官ニ申ス

次各退出



臨時奉幣祭

次第時ニ臨ミ之ヲ定ム

二 中 祭 式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次禰宜以下神饌ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若クハ禰宜以下拜禮

次禰宜以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次各退出

三 小 祭 式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次禰宜以下神饌ヲ供ス

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若クハ禰宜以下拜禮

次禰宜以下神饌ヲ撤ス

次各退出

四 修 祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次禰宜祝詞ヲ讀ム

次主典一人大麻ヲ執リ同一人若クハ雇員盥湯ヲ執リ神饌及宮司以下ヲ祓フ

次各退下

五 祝 詞 (省略)

六 雜 則



- 一 御幣物ハ祭日ノ前地方長官正廳ニ臨ミ之ヲ點檢ス
- 一 神饌料ハ豫メ之ヲ神社ニ交付ス
- 一 四ニ定ムル修祓ハ祭祀ノ前之ヲ行フ
- 一 御幣物竝ニ幣帛供進使、地方長官、内務省高等官及地方高等官ノ修祓ハ四ニ定ムル式ニ準シテ之ヲ行フ
- 一 神饌臺數竝品目左ノ如シ

大 祭

- 大 社 十一臺以上
- 中 社 十臺以上
- 小 社 九臺以上
- 別格官幣社

和稻 荒稻 酒 餅 海魚 川魚 野鳥 水鳥 海菜 野菜 菓 鹽 水  
 但シ小社別格官幣社ニ在リテハ野鳥水鳥ノ中一種ヲ省略スルコトヲ得

中 祭 七臺以上

和稻 荒稻 酒 餅 魚 鳥 海菜 野菜 菓 鹽 水

但シ鳥ハ之ヲ省略スルコトヲ得

小 祭 五臺以上

和稻 荒稻 酒 魚 海菜 野菜 菓 鹽 水

定額ノ神饌及幣物ノ外其ノ他ノ產物等ヲ副ヘテ奉ルコトヲ得

- 一 例祭及遷座祭ニ際シ古例ノ神事アルモノハ之ヲ行フコトヲ得
- 一 神社ニ特別ノ由緒アル祭祀若ハ小祭ニシテ一社傳來ノ儀式アルモノハ之ヲ行フコトヲ得
- 一 官幣大社ニシテ特別ノ定例アルモノハ之ニ依ル
- 一 遷座祭ノ祭式及祝詞中本令ニ依リ難キ事由アル場合ハ其ノ一部ヲ變更スルコトヲ得
- 一 祭祀ニ參列ヲ許サレタル者ハ神職ニ次テ拜禮スルコトヲ得
- 一 略ス(便宜)

第二 府縣社以下神社祭式

官國幣社祭式ニ準ス但シ祝詞ハ左ノ如シ

祈年祭社司(社掌)祝詞

掛<sup>カケ</sup>麻<sup>マ</sup>久<sup>ク</sup>母<sup>モ</sup>畏<sup>カシ</sup>伎<sup>キ</sup>某<sup>モ</sup>神社<sup>カ</sup>乃<sup>ニ</sup>大<sup>オ</sup>前<sup>ホマ</sup>爾<sup>ヘ</sup>社<sup>ニ</sup>司<sup>シ</sup>(社掌)位<sup>カシ</sup>勳<sup>コ</sup>功<sup>キ</sup>爵<sup>ク</sup>氏<sup>シ</sup>名<sup>ナ</sup>恐<sup>カシ</sup>美<sup>コ</sup>恐<sup>シ</sup>美<sup>コ</sup>母<sup>モ</sup>白<sup>ク</sup>左<sup>サ</sup>久<sup>ク</sup>今<sup>イマ</sup>年<sup>ネン</sup>乃<sup>ニ</sup>御<sup>ミ</sup>年<sup>ネン</sup>始<sup>ハジ</sup>給<sup>タマ</sup>布<sup>フ</sup>爾<sup>ニ</sup>依<sup>ヨ</sup>里<sup>リ</sup>氏<sup>シ</sup>  
 此<sup>コ</sup>乃<sup>ノ</sup>某<sup>カ</sup>道<sup>ミチ</sup>府<sup>フ</sup>縣<sup>ケン</sup>(郡<sup>クニ</sup>市<sup>シ</sup>區<sup>ク</sup>町<sup>チヨウ</sup>村<sup>ムラ</sup>) 與<sup>ヨリ</sup>里<sup>リ</sup>宇<sup>ウ</sup>豆<sup>ヅ</sup>乃<sup>ニ</sup>幣<sup>ヒ</sup>帛<sup>ヒツ</sup>捧<sup>テ</sup>奉<sup>ル</sup>留<sup>ル</sup>賀<sup>ガ</sup>故<sup>コ</sup>爾<sup>ニ</sup>大<sup>オ</sup>前<sup>ホマ</sup>爾<sup>ヘ</sup>齋<sup>サイ</sup>麻<sup>マ</sup>波<sup>ハ</sup>里<sup>リ</sup>清<sup>キヨ</sup>麻<sup>マ</sup>波<sup>ハ</sup>里<sup>リ</sup>氏<sup>シ</sup>獻<sup>タマ</sup>奉<sup>ル</sup>留<sup>ル</sup>御<sup>ミ</sup>食<sup>シ</sup>波<sup>ハ</sup>



和稻荒稻爾仕奉里氏御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿竝倍氏大野乃原爾生布留物波甘菜辛菜青海原爾住  
牟物波餅乃廣物餅乃狹物與都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳爾置足波志氏今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮  
登爾稱辭竟奉久乎平介久安介久聞食志氏天下乃國民賀手肱爾水泡搔垂里向股爾泥搔寄世氏取作良牟  
奧都御年乎始米氏草乃片葉爾至留麻傳作里登作留物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受豐爾牟久佐加爾  
成幸給比氏新嘗乃御祭嚴志久美志久仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十四字ヲ削ル

祈年祭幣帛供進使祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾官(職)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今年乃祈年祭爾某道府縣(郡  
市區町村)與里獻奉留宇豆乃幣帛平安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏皇神等乃依奉良牟與都  
御年乎八束穗乃茂穗爾成幸給比氏天皇命乃大朝廷乎始米氏天下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌爾廣爾五  
十櫃八桑枝乃如久立榮衣志米給閉都恐美恐美母白須

新嘗祭社司(社掌)祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久天都御食乃長御食乃遠御  
食登天皇命乃新嘗聞食須爾依里氏此乃某道府縣(都市區町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾皇神等  
乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里氏山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波餅乃廣物餅  
乃狹物與都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳爾置足波志氏獻奉良久乎聞食志宇豆那比給比氏天皇命乃大御代  
乎殿御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氏天乃  
下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比氏五十櫃八桑枝乃如久立榮衣仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟  
奉良久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十四字ヲ削ル

新嘗祭幣帛供進使祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾官(職)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今年乃新嘗乃祭爾某道府縣(郡



市區町村) 奥里獻奉留宇豆乃幣帛平安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏天都御食乃長御食乃遠  
御食登豐明爾明坐左牟皇御孫命乃大御食乎萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久聞食左志米給比天皇  
命乃大朝廷乎始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十樞八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美  
恐美母白須

例祭社司(社掌)祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左高天原爾神留坐須神漏岐  
神漏美命以知氏天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮乎靜宮乃常宮登鎮坐須大神乃廣伎厚伎恩  
頼乎尊美奉里仰奉里氏一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾此乃某道府縣(郡市區町村)奥里宇  
豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏天  
皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始  
米氏天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉久登白須

辭別伎氏白左久此久仕奉留爾依里氏御氏子乃人等又此乃某道府縣(郡市區町村)乃人等乎廣久厚久  
守給比惠給比氏心穩爾身健爾家内安產業豊介久各母各母彌饒比爾饒比氏生乃子乃八十續爾至留麻傳  
彌榮衣爾榮志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣(郡市區町村)奥里宇豆乃幣帛捧奉留  
賀故爾大前爾ノ二十七字ヲ削ル

例祭幣帛供進使祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾官(職)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久常乃例乃隨爾仕奉留一年爾一  
回乃今日乃御祭爾某道府縣(郡市區町村)奥里獻奉留宇豆乃幣帛平安幣帛乃足幣帛登平介久安介久  
聞食志氏天皇命乃大朝廷乎始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾守給比幸給閉登恐美恐美母  
白須

假殿遷座本殿祭祝詞



掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃常宮登鎮坐世留此乃  
御殿乃年經氏破損波禮多留賀故爾今度改造里(修里)仕奉良半登須是乎以知氏今日乃生日乃足日爾  
假宮爾遷奉里坐奉留事乎平介久安介久聞食世登恐美恐美母白須

假殿遷座假殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今日乃吉日乃吉辰爾此乃  
假宮爾遷奉里坐奉里奴是乎以知氏大前爾御食御酒種種乃物乎置足波志氏獻奉留狀乎平介久安介久聞  
食志氏暫乃間平穩爾鎮坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座假殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃敷坐須瑞乃御殿乎  
改造里(修里)仕奉良半登往志某年某月某日爾此乃假宮爾遷奉里坐奉里志乎此乃某年某月某日爾  
至里氏新宮殿志久麗志久築造里(御殿本乃如修里)仕奉里畢閉奴是乎以知氏今日乃生日乃足日爾還志

鎮米坐奉留事乎聞食志氏安介久靜介久遷坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座本殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃天乃御蔭日乃御蔭  
登隱里坐左半瑞乃御殿清久美志久改造(修里)仕奉里畢閉奴留依里氏今日乃吉日乃吉辰爾還志鎮  
米坐奉里奴是乎以知氏禮代乃御食御酒種種乃物乎置足波志氏獻奉留狀乎平介久安介久聞食志氏今與里  
往先大御心平穩爾此乃大宮乎靜宮乃安宮登長久爾鎮坐世登恐美恐美母白須

遷座祭ノ祝詞中本令ニ依リ難キ事由アル場合ハ其ノ一部ヲ變更スルコトヲ得

歲旦祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久新伎年乃新伎月乃新伎  
日乃今日乃朝日乃豐榮登爾御賀乃壽詞仕奉良久登豐御食豐御酒種種乃物乎獻奉留狀乎平介久安介久  
聞食志氏此乃年乎良伎年乃美志年登守給比幸給比氏天皇命乃大朝廷乎堅磐爾常磐爾齋奉里給比天



乃下平介久穀物豊介久産業平彌獎爾米獎米國民平彌榮衣爾榮衣志米給比氏大御稜威乎差昇留年乃初日乃光登共爾彌益爾輝加志米給閉登恐美恐美母御賀乃壽詞仕奉良久登白須

元始祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久遠皇祖乃大御代與里天皇命乃御代御代受傳坐志氏知食志來留天都日嗣高御座乃大元始乎歲乃首爾言壽奉留登爲氏今日乃御祭仕奉留狀乎平介久安介久聞食志氏天皇命乃知食須天都日嗣乃大御隆天地乃共無窮氏動久事無久變留事無久齋奉里幸奉里給比天乃下平介久國內安介久皇大朝廷乃御大稜威乎天輝志國輝志爾輝加志米給比皇大御國乃大御榮乎天足志國足志爾足波志米給閉登禮代乃御食御酒種種乃物乎捧奉里氏恐美恐美母言壽奉良久登白須

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐

神漏美命以知氏豊葦原水穂國乎萬千秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉里志隨爾神日本磐余彦天皇乃高伎嚴志伎大御德以知氏食國天乃下平給比調給比氏大和國乃畝傍檜原乃底都岩根爾大宮柱太敷立氏高天原爾千木高知里氏天都日嗣乃高御座爾坐志氏肇國知食志志與里皇御孫命乃御代御代彌繼繼爾承繼伎傳來坐志氏彌廣爾彌遠爾立榮衣行久大元乎恐美奉里辱美奉里氏今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物乎大前爾捧奉里氏今日乃言壽乃賀詞乎神壽岐壽奉良久波皇大御神乃定給比旋給閉留事乃隨爾天都日嗣乃大御位波天地登共爾久志久月日登共爾遠久彌益爾爾御榮坐左奉皇大朝廷乃大御稜威波天乃壁立極國乃退立限彌次爾廣里行加平登神壽岐壽奉良久乎甘良爾聞食世登恐美恐美母白須

天長節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久八十日波有禮杼母今日乃生日乃足日波志母明御神登天乃下知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛多伎美志日登天皇命乃大朝廷乎



始米氏天乃下四方乃國波青雲乃萬久極白雲乃向伏須限落都留事無久漏留事無久言壽仕奉禮波此乃  
大前爾御食御酒種種乃物乎捧奉里氏稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氏天皇命乃大御壽乎手長乃  
大御壽登由都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齋奉里齋御代爾幸 奉里給比大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加  
志米給比大御惠乎彌遠爾彌長爾仰賀志米給閉登恐美恐美母言壽奉良久登白須

明治節 祭 祝 詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久遠皇祖乃大御代與里 天皇  
命乃御代御代受傳來坐世留序乃隨爾天都日嗣乃高御座爾坐志氏食國天乃下乃大御業乎 恢給比皇大  
御國乃大御隆乎進給比志明治天皇乃高伎大御德乎尊 奉里嚴志伎大御代乎仰奉留登齋定給閉留今日  
乃生日乃足日爾大前爾御食御酒種種乃物乎捧奉里氏稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氏明治乃新  
代乃大御蹟乎彌繼爾恢弘米志米給比氏皇大朝廷乃大御稜威乎天乃壁立極國乃退立限彌高爾彌廣  
爾伊照里輝加志米給比親王等諸王等乎始米氏天乃下乃國民爾至留傳五十榎八桑枝乃如久 立榮衣志

米給閉登恐美恐美母白須

祝

詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓 戸大  
神等今日仕奉留神 職 等賀過犯世留罪穢有良乎乎受祓給比清給閉登 申須事乎聞食世登 恐美 恐美母  
白須

幣帛供進使ノ修祓ニ當リテハ神職ノ二字ヲ次ノ二字ニ換フ

官人

○護國神社例祭、鎮座祭及合祀祭祭式及祝詞

(昭和十四年三月十五日)  
(内務省令第十三號)

護國神社例祭、鎮座祭及合祀祭祭式及祝詞左ノ通定ム



護國神社例祭、鎮座祭及合祀祭祭式及祝詞

一 祭 式

例 祭

當日早且社殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)所定ノ座ニ著ク

次幣帛供進使參進 是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次幣帛供進使被所ニ著ク

次修 祓 先幣物次幣帛  
供進使及隨員

次幣帛供進使所定ノ座ニ著ク

次幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク 幣帛供進使  
隨員副ヲ

次社司(社掌)諸事辨備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次社司(社掌)御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次社掌神饌ヲ供ス 此間奏樂

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

案ハ豫メ便宜  
ノ所ニ設ク

次幣帛供進使隨員幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク

次社司(社掌)幣物ヲ奉ル

次幣帛供進使祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮 隨員拜禮

次社司(社掌)玉串ヲ奉リテ拜禮 社掌拜禮

次社掌幣物ヲ撤ス

次社掌神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次社司(社掌)御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次各 退 出

鎮 座 祭

鎮 座 ノ 儀

當日早且本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)假殿所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)參進隨員副從 是ヨリ先手  
水ノ儀アリ



次地方長官(市町村長)被所ニ著ク

次修 被

次地方長官(市町村長)假殿所定ノ座ニ著ク

次社司(社掌)諸事辨備セル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次社司(社掌)降神ノ儀ヲ行フ

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次遷御 此間奏樂

其ノ儀地方長官(市町村長)前行社司(社掌)奉戴諸員供奉ス

次入御 此間奏樂

是ヨリ先社掌本殿ノ御扉ヲ開ク

次社司(社掌)御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)拜禮 隨員拜禮

次社司(社掌)拜禮 社掌拜禮

次社司(社掌)御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク 此間奏樂

次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス  
次各 退出

幣帛供進ノ儀

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)參進隨員副從 是ヨリ先手  
次地方長官(市町村長)被所ニ著ク 水ノ儀アリ

次修 先幣物次地方長官  
(市町村長)及隨員

次地方長官(市町村長)所定ノ座ニ著ク

次幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク 地方長官(市町  
村長)隨員副フ

次社司(社掌)諸事辨備セル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次社司(社掌)御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次社掌神饌ヲ供ス 此間奏樂

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)隨員幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク  
案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク



次社司(社掌)幣物ヲ奉ル

次地方長官(市町村長)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)玉串ヲ奉リテ拜禮 隨員拜禮

次社司(社掌)玉串ヲ奉リテ拜禮 社掌拜禮

次社掌幣物ヲ撤ス

次社掌神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次社司(社掌)御屏ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次各 退出

鎮座ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合

當日早且本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)假殿所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)參進隨員副從 是ヨリ先手

次地方長官(市町村長)祓所ニ著ク 水ノ儀アリ

次修 祓 先幣物次地方長官

(市町村長)及隨員

次地方長官(市町村長)假殿所定ノ座ニ著ク

次幣物辛櫃ヲ本殿便宜ノ所ニ置ク 地方長官(市町村長)隨員副從

次社司(社掌)諸事辨備セル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次社司(社掌)降神ノ儀ヲ行フ

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次遷御 此間奏樂

其ノ儀地方長官(市町村長)前行社司(社掌)奉戴諸員供奉ス

次入御 此間奏樂

是ヨリ先社掌本殿ノ御屏ヲ開ク

次社司(社掌)御屏ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次社掌神饌ヲ供ス 此間奏樂

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)隨員幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク

次社司(社掌)幣物ヲ奉ル

次地方長官(市町村長)祝詞ヲ奏ス

案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク



次地方長官(市町村長)玉串ヲ奉リテ拜禮 隨員拜禮

次社司(社掌)玉串ヲ奉リテ拜禮 社掌拜禮

次社掌幣物ヲ撤ス

次社掌神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次社司(社掌)御屏ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク 此間奏樂

次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次各退出

合 祀 祭

合 祀 ノ 儀

當日早旦本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)本殿所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)參進隨員副從 是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次地方長官(市町村長)祓所ニ著ク

次修 祓

次地方長官(市町村長)本殿所定ノ座ニ著ク

次社司(社掌)諸事辦備セル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次社司(社掌)御屏ヲ開ク 此間奏樂

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次社掌御屏ノ側ニ候シ社司以下(社掌)假殿所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)假殿所定ノ座ニ著ク

次社司(社掌)降神ノ儀ヲ行フ

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次遷御 此間奏樂

其ノ儀地方長官(市町村長)前行社司(社掌)奉戴諸員供奉ス

次入御 此間奏樂

次社司(社掌)御屏ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)拜禮 隨員拜禮

次社司(社掌)拜禮 社掌拜禮

次社司(社掌)御屏ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス



次各退出

幣帛供進ノ儀

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)參進隨員副從

是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次地方長官(市町村長)祓所ニ著ク

次修 祓 先幣物次地方長官  
(市町村長)及隨員

次地方長官(市町村長)所定ノ座ニ著ク

次幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク

地方長官(市町  
村長)隨員副ヲ

次社司(社掌)諸事辨備セル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次社司(社掌)御屏ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂

次社掌神饌ヲ供ス 此間奏樂

次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)隨員幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク

案ハ豫メ便宜  
ノ所ニ設ク

次社司(社掌)幣物ヲ奉ル

次地方長官(市町村長)祝詞ヲ奏ス

次地方長官(市町村長)玉串ヲ奉リテ拜禮 隨員拜禮

次社司(社掌)玉串ヲ奉リテ拜禮 社掌拜禮

次社掌幣物ヲ撤ス

次社掌神饌ヲ撤ス 此間奏樂

次社司(社掌)御屏ヲ閉テ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス

次各退出

合祀ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合

當日早旦本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻社司以下(社掌)本殿所定ノ座ニ著ク

次地方長官(市町村長)參進隨員副從

是ヨリ先手  
水ノ儀アリ

次地方長官(市町村長)祓所ニ著ク

次修 祓 先幣物次地方長官  
(市町村長)及隨員

次地方長官(市町村長)本殿所定ノ座ニ著ク

次幣物辛櫃ヲ本殿便宜ノ所ニ置ク

地方長官(市町  
村長)隨員副ヲ



次社司(社掌)諸事辨備セル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス  
 次社司(社掌)御屏ヲ開ク 此間奏樂  
 次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス  
 次社掌御屏ノ側ニ候シ社司以下(社掌)假殿所定ノ座ニ著ク  
 次地方長官(市町村長)假殿所定ノ座ニ著ク  
 次社司(社掌)降神ノ儀ヲ行フ  
 次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス  
 次遷御 此間奏樂  
 其ノ儀地方長官(市町村長)前行社司(社掌)奉戴諸員供奉ス  
 次入御 此間奏樂  
 次社司(社掌)御屏ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク  
 次社掌神饌ヲ供ス 此間奏樂  
 次社司(社掌)祝詞ヲ奏ス  
 次地方長官(市町村長)隨員幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク  
 次社司(社掌)幣物ヲ奉ル

案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク

次地方長官(市町村長)祝詞ヲ奏ス  
 次地方長官(市町村長)玉串ヲ奉リテ拜禮 隨員拜禮  
 次社司(社掌)玉串ヲ奉リテ拜禮 社掌拜禮  
 次社掌幣物ヲ撤ス  
 次社掌神饌ヲ撤ス 此間奏樂  
 次社司(社掌)御屏ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂  
 次社司(社掌)祭儀畢レル由ヲ地方長官(市町村長)ニ申ス  
 次各退出  
 鎮座祭及合祀祭ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ハ降神ノ儀ハ本殿ニテ之ヲ行ヒ遷御ノ儀ヲ省クコトヲ得  
 關係部隊代表者參列ノ場合ハ幣帛供進使又ハ地方長官(市町村長)ノ祝詞奏上ニ次デ祭文ヲ奏上シ幣帛供進  
 使又ハ地方長官(市町村長)ニ次デ拜禮スルコトヲ得  
 緣故者及參列者參列ノ場合ハ神職ニ次デ拜禮スルコトヲ得  
 神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテモ祭式ハ之ニ準ズ

二 祝 詞



例祭社司(社掌)祝詞

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃明伎清伎武伎雄  
雄志伎心爾身乎竭志氏天都日嗣乃大御業爾仕奉里皇大御國乃大御光乎輝加志米奉里給比志高伎嚴志伎  
勳功乎仰奉里廣伎厚伎恩頼乎尊奉里氏年每爾仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾此乃某道府縣(市町  
村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞  
食志氏天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登磐爾常磐乎齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等  
諸王等乎始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十二字ヲ削ル

例祭幣帛供進使祝詞

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾官(職)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久常乃例登年每爾仕奉留今  
日乃御祭爾某道府縣(市町村)與里獻奉留宇豆乃幣帛乎安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏天皇

命乃大朝廷乎始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾守給比幸給閉登恐美恐美母白須

鎮座假殿祭社司(社掌)祝詞

此乃假殿爾招奉里坐奉留何某命(乎始米氏何柱)乃神靈乃御前爾某護國神社社司(社掌)位勳功爵  
氏名恐美恐美母白左久汝命(等)某乃戰役(事變)爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾明伎清伎心乎竭志身母多  
奈知良受勳美勞伎仕奉給比志高伎嚴志伎勳功乎仰奉里畏奉里氏今度此乃某護國神社爾齋比鎮米  
坐奉留事乎聞食志氏安介久靜介久遷坐世登恐美恐美母白須

鎮座本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ一

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今度此乃地爾瑞乃御  
殿乎造里仕奉里氏今日乃吉日乃吉辰爾大神乃神靈乎齋比鎮米坐奉里奴留乎以知氏今與里往先大御心  
平穩爾此乃大宮乎靜宮乃安宮登長久爾鎮坐世登恐美恐美母白須

假殿ノ儀ヲ省ク場合ノ鎮座本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ一



掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久何某命(平始米氏何柱乃命等)某乃戰役(事變)爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾明伎清伎心乎竭志身母多奈知良受勤美勞伎仕奉給比志高伎嚴志伎勳功乎仰奉里畏奉里氏今度此乃地爾瑞乃御殿乎造里仕奉里氏今日乃吉日乃吉辰爾大神乃神靈乎齋比鎮米坐奉里奴留乎以知氏今與里往先大御心平穩爾此乃大宮乎靜宮乃安宮登長久爾鎮坐世登恐美恐美母白須

鎮座本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ二

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃天乃御蔭日乃御蔭登隱坐左平瑞乃御殿清久美志久造里仕奉里氏今度神靈乎齋比鎮米坐奉里奴是乎以知氏此乃某道府縣(市町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏高伎嚴志伎神德乎彌益益爾仰賀志米給比廣伎厚伎恩頼乎彌遠長爾蒙良志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十二字ヲ削ル

鎮座ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合ノ鎮座本殿祭社司(社掌)祝詞

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今度此乃地爾瑞乃御殿乎造里仕奉里氏今日乃吉日乃吉辰爾大神乃神靈乎齋比鎮米坐奉里奴是乎以知氏此乃某道府縣(市町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏高伎嚴志伎神德乎彌益益爾仰賀志米給比廣伎厚伎恩頼乎彌遠長爾蒙良志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十二字ヲ削ル

假殿ノ儀ヲ省キ鎮座ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合ノ鎮座本殿祭社司(社掌)祝詞

詞

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久何某命(平始米氏何柱乃命等)某乃戰役(事變)爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾明伎清伎心乎竭志身母多奈知良受勤美勞伎仕



奉給比志高伎嚴志伎動功乎仰奉里畏 奉里氏今度此乃地爾瑞乃御殿乎造里仕奉里氏今日乃吉日乃吉辰  
爾大神乃神靈乎齋比鎮米坐奉里奴是乎以知氏此乃某道府縣(市町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留智故爾大  
前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏高伎嚴志伎神德乎彌益益爾  
仰賀志米給比廣伎厚伎恩 頼乎 彌遠長爾蒙良志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十二字ヲ削ル

鎮座本殿祭地方長官(市町村長)祝詞

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾官(職)位動功爵氏名恐美恐美母白左久今度此乃地爾瑞乃御殿乎  
造里仕奉里氏神靈乎齋比鎮米坐奉里奴留爾依里氏此乃某道府縣(市町村)與里獻奉留宇豆乃幣帛乎安  
幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏皇大朝廷乃大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加志米給比皇大御國乃  
大御榮乎彌遠爾彌長爾足波志米給閉登恐美恐美母白須

合祀本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ一

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位動功爵氏名恐美恐美母白左久今度某乃戰役(事變)  
爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾心乎竭志身乎捧宜氏勤美勞伎奉仕給比志何某命(平始米氏何柱)乃神靈乎  
此乃御殿爾合世鎮奉良平登爲留爾依里氏大前爾事乃由平告奉良久乎平介久安介久宇豆那比聞食世登恐  
美恐美母白須

合祀假殿祭社司(社掌)祝詞

此乃假殿爾招奉里坐奉留何某命(平始米氏何柱)乃神靈乃御前爾某護國神社司(社掌)位動功爵  
氏名恐美恐美母白左久汝命(等)某乃戰役(事變)爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾明伎清伎心乎竭志身母多  
奈知良受勤美勞伎仕奉給比志高伎嚴志伎動功乎仰奉里畏 奉里氏今度此乃某護國神社爾合世鎮  
米坐奉留事乎聞食志氏安介久靜介久遷坐世登恐美恐美母白須

合祀本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ二

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾社司(社掌)位動功爵氏名恐美恐美母白左久今度何某命(平始米氏



何柱)乃神靈乎此乃御殿爾合世鎮米坐奉里奴留乎以知氏今與里往先大御心平穩爾彌遠長爾鎮坐世登恐美恐美母白須

假殿ノ儀ヲ省ク場合ノ合祀本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ二

掛麻久母畏伐某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久何某命(平始米氏何柱乃命等)某乃戰役(事變)爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾明伎清伎心乎竭志身母多奈知良受勤美勞伎仕奉給比志高伎嚴志伎勳功乎仰奉里畏 奉里氏今日乃吉日乃吉辰爾神靈乎此乃御殿爾合世鎮米坐奉里奴留乎以知氏今與里往先大御心平穩爾彌遠長爾鎮坐世登恐美恐美母白須

合祀本殿祭社司(社掌)祝詞 其ノ三

掛麻久母畏伐某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今度何某命(平始米氏何柱)乃神靈乎此乃御殿爾合世鎮米坐奉里奴是乎以知氏此乃某道府縣(市町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏高伎嚴志伎神

德乎彌益益爾仰賀志米給比廣伎厚伎恩 賴乎 彌遠長爾蒙良志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下二十二字ヲ削ル

合祀ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合ノ合祀本殿祭社司(社掌)祝詞

掛麻久母畏伐某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今度何某命(平始米氏何柱)乃神靈乎此乃御殿爾合世鎮米坐奉里奴是乎以知氏此乃某道府縣(市町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏高伎嚴志伎神德乎彌益益爾仰賀志米給比廣伎厚伎恩 賴乎 彌遠長爾蒙良志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此某道府縣以下二十二字ヲ削ル

假殿ノ儀ヲ省キ合祀ノ儀ニ引續キ幣帛供進ノ儀ヲ行フ場合ノ合祀本殿祭社司(社掌)祝

詞

掛麻久母畏伐某護國神社乃大前爾社司(社掌)位勳功爵氏名恐美恐美母白左久何某命(平始米氏何柱



乃命等某乃戰役(事變)爾際里氏皇大朝廷乃御爲爾明伎清伎心乎竭志身母多奈知良受勤美勞伎仕  
 奉給比志高伎嚴志伎動功乎仰奉里畏奉里氏今日乃吉日乃吉辰爾神靈乎此乃御殿爾合世鎮米坐奉里  
 奴是乎以知氏此乃某道府縣(市町村)與里宇豆乃幣帛捧奉留賀故爾大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留  
 御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氏高伎嚴志伎神德乎彌益益爾仰賀志米給比廣伎厚伎恩賴乎  
 彌遠長爾蒙良志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下二十二字ヲ削ル

合祀本殿祭地方長官(市町村長)祝詞

掛麻久母畏伎某護國神社乃大前爾官職位動功爵氏名恐美恐美母白左久今度何某命(乎始米氏何柱)  
 乃神靈乎此乃御殿爾合世鎮米坐奉里奴留爾依里氏此乃某道府縣(市町村)與里獻奉留宇豆乃幣帛乎安  
 幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏皇大朝廷乃大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加志米給比皇大御國乃  
 大御榮乎彌遠爾彌長爾足波志米給閉登恐美恐美母白須

附 則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件

(大正三年三月二十七日  
 內務省令第五號)

官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件左ノ通定ム

官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件

第一條 祭祀ニ奉仕シ又ハ參向スル者ハ大祭、中祭ニハ其ノ當日及前日小祭ニハ其ノ當日齋戒スヘシ  
 第二條 齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ與ル等其ノ他凡テ汚穢ニ觸ルルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### ○遷座式執行ニ關スル件

(明治十年五月十日  
内務省達丁第八號)

各社本殿造修ノ都度假正遷座執行致シ來候處自今本殿改造又ハ内陣修繕總屋根葺替等ノ外遷座ニ及バス供  
候ノ上祝詞ヲ以テ其由ヲ告ゲ候儀ト可心得此旨相達候事  
(但此場合ニ於テモ神饌等ノ入費ハ其都度別段地方官ヘ可稟請ノ事)

### 服制

### ○神官神職服制

(大正元年十二月七日  
勅令第五三號)

改正 大正九年一月勅令第四號

朕神官神職服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神官神職服制

神官神職服制別表ノ通定ム

附 則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別表)

### 神官神職服制表

衣		皇族	勅任官及 侍官	奏任官及 侍官	判任官及 侍官
冠	袍				
垂掛 紙紵 櫻	縫 腋	黑羅 紫紋 小菱	同	同	同
冬	冬	黑綾 紋雲 鶴 裏同色 絹	黑綾 紋輪 ナシ 裏同色 平絹	赤綾 紋同 平絹 裏同色 上	綠綾 無 蘇芳 染平 絹 裏同色 上



淨	狩					服			
	烏帽子 掛緒紙捻	履 淺 沓	笏 木 笏	袴 差 袴	狩衣 親王、王 ハ小直衣	烏帽子 掛緒紙捻	履 淺 沓	帖紙	笏 木 笏
淨衣	立	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	綾、練薄、縫取、 顯文紗、平絹ノ類 裏冬ハ平絹夏ハ生 絹ヲ附スル事ヲ得	立	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ
白絹 <small>裏ナシ但シ冬ハ白平絹 ノ裏ヲ附ルコトヲ得</small>	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	綾、練薄、顯文紗 平絹ノ類 裏冬ハ平絹夏ハ生 絹ヲ附スル事ヲ得	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	顯文紗、平絹 ノ類 裏ナシ	同	同	同	同
裏ナシ上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

齋				冠						
袴	單	袍	冠	履	帖紙	檜扇	笏	袴	單	夏
差 袴		縫 腋	垂 掛緒紙捻	淺 沓			木 笏	奴 袴		
白絹 裏白平絹	白 絹	白絹 <small>裏ナシ但シ冬ハ白平絹 ノ裏ヲ附ルコトヲ得</small>	黒羅 遠 文	沓敷、白綾 有 紋	白 檀 紙	檜無地 二十五橋	櫛ノ 類	紫織物 裏同色平絹	紅綾 紫紋 文菱	黒穀 紋雲鶴
同	同	同	同	同	同	同	同	紫固織 裏同色平絹	紅綾 紫紋 文菱	黒穀 紋輪ナシ
上	上	上	上	上	上	上	上	上	同	赤穀 紋同上
同	同	同	同	沓敷、白平絹	同	同	同	紫平絹 裏同色平絹	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	同
同	同	同	同	同	同	同	同	淺黄平絹 裏同色平絹	同	緑穀 無 紋
上	上	裏ナシ上	上	上	上	上	上	上	上	上



衣		
袴	笏	履
差袴	木笏	淺沓
齋服ニ同シ	衣冠ニ同シ	衣冠ニ同シ
同	同	同
上	上	上
同	同	同
上	上	上
同	同	同
上	上	上

二四

### ○神官神職服裝規則

改正 大正三年三月内務省訓令第五號

(大正二年三月二十五日  
内務省訓令第四號)

神官神職服裝規則左ノ通定ム

#### 神官神職服裝規則

- 第一條 神官神職服裝ヲ分テ正裝、禮裝、常裝ノ三種トス
- 第二條 正裝トハ衣冠ヲ著用スルヲ云フ但シ従前ヨリ慣例アルモノニ限り齋服ヲ以テ正裝ト爲スコトヲ得
- 第三條 禮裝トハ齋服ヲ著用スルヲ言フ
- 第四條 常裝トハ狩衣又ハ淨衣ヲ著用スルヲ言フ

神 官 神 職

第五條 正裝ハ左ノ場合ニ著用スルモノトス

- 一 天皇、三后、皇太子、皇太孫御參拜ノトキ
- 二 大祭ノトキ

第六條 禮裝ハ中祭ノ場合ニ著用スルモノトス

第七條 常裝ハ小祭日拜竝恒例トシテ行フ式等ノ場合ニ著用スルモノトス

附 則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ○官國幣社以下神社幣帛供進使服制

(明治四十四年四月二十九日  
勅令 第三百三十號)

改正 大正九年一月勅令第三號、昭和二年八月第二五四號

朕官國幣社以下神社幣帛供進使服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社以下神社幣帛供進使服制

官國幣社以下神社幣帛供進使服制別表ノ通定ム

市長(北海道ニ在リテハ區長)ハ奏任官ノ制ニ準シ町村長又ハ之ニ準スヘキ者ハ判任官ノ制ニ準ス其ノ代理



者ニ付亦同シ  
奏任官ノ待遇ヲ受クル邑面長ハ奏任官ノ制ニ準ジ判任官ノ待遇ヲ受クル邑面長ハ判任官ノ制ニ準ズ其ノ代理者ニ付亦同ジ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ府縣社以下神社幣帛供進使ニ限り本令ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

別 表

官國幣社以下神社幣帛供進使服制表

冠	垂掛緒紙捻		勅任官	奏任官	判任官
	夏	冬			
綾	黒	黒	黒羅	同	黒羅
紋小綾	繁文	繁文	繁文	上	遠文
綾	黒	赤	赤綾	同	黒羅
紋輪ナシ	裏同色平絹	裏同色平絹	紋同上	上	裏蘇芳染平絹
綾	黒	赤	赤綾	同	黒羅
紋輪ナシ	裏同色平絹	裏同色平絹	紋同上	上	裏蘇芳染平絹
綾	黒	赤	赤綾	同	黒羅
紋輪ナシ	裏同色平絹	裏同色平絹	紋同上	上	裏蘇芳染平絹
綾	黒	赤	赤綾	同	黒羅
紋輪ナシ	裏同色平絹	裏同色平絹	紋同上	上	裏蘇芳染平絹

單	袴	笏	檜扇	帖紙	履
紅綾	紫固織	木笏	檜無地	白檀紙	淺沓
紋橫菱	紋藤ノ丸	標	二十五橋	有紋	沓敷、白綾
同	紫平絹	同	同	同	沓敷、白平絹
上	裏同色平絹	上	上	上	同
同	淺黃平絹	同	同	同	同
上	裏同色平絹	上	上	上	上

○幣帛供進使隨員服制

(大正二年三月十一日  
內務省訓令第三號)

廳 府 縣

幣帛供進使隨員(判任官ヲ除ク)服制左ノ通定ム  
衣 冠



冠 垂掛緒紙捻	袍	縫腋	單	袴	奴袴	笏	木笏	履	淺沓
黑羅遠文	黃平絹裏ナシ	紅平絹	白布裏同色	白布平絹	櫟	櫟	沓敷	白平絹	

布衣 (衣冠代用)

烏帽子 掛緒紙捻	布衣	袴	差袴	笏	木笏	履	淺沓
風折	布裏ナシ	白布	櫟	櫟	沓敷	白平絹	

備考 布衣ヲ以テ衣冠ニ代フル場合ニハ笏ヲ末廣ニ履ヲ草履ニ代フルコトヲ得

附則

本令ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

(昭和十三年四月十二日 勅令第二百四十一號)

○官國幣社以下神社ノ遷座祭ニ於テ前行及供奉ノ所役ヲ奉仕スル者竝ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ニ於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ服制ニ關スル件

改正 昭和十四年三月勅令第六一號

朕官國幣社以下神社ノ遷座祭ニ於テ前行及供奉ノ所役ヲ奉仕スル者竝ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ニ於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社以下神社(別格官國幣社靖國神社ヲ除ク)ノ遷座祭ニ於テ前行及供奉ノ所役ヲ奉仕スル者竝ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ニ於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ服制ニ關シテハ官國幣社以下神社幣帛供進使服制ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年勅令第九十五號ハ之ヲ廢止ス

○官國幣社以下神社ノ遷座祭竝ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ニ於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ隨員ノ服制ニ關スル件

(昭和十四年三月十五日 內務省訓令第一號)

官國幣社以下神社ノ遷座祭竝ニ護國神社ノ鎮座祭及合祀祭ニ於テ前行ノ所役ヲ奉仕スル者ノ隨員(判任官ヲ除ク)ノ制服ニ關シテハ大正二年三月內務省訓令第三號ヲ準用ス

附則



本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十三年四月内務省訓令第十號ハ之ヲ廢止ス

○勅使參向御治定ノ件

官幣大社	賀茂別雷神社	明治十六年	太政官無號達
同	賀茂御祖神社	明治十六年	太政官無號達
同	石清水八幡宮	明治十八年	太政官無號達
同	春日神社	明治十八年	式部職發二九四四號
同	氷川神社	明治二十五年	宮内大臣官房文書課宮發第六三號
同	熱田神宮	大正六年	宮内大臣官房文書課宮發第六〇二號
同	出雲大社	大正六年	式部送第二六三號宮内大臣通牒
同	樞原神宮	大正九年	
同	明治神宮	大正十四年ヨリ	
同	宇佐神宮	(大正十四年ヨリ)	
同	香椎宮	(大正十四年)	

神饌 幣帛 供進使

○官幣社例祭竝官國幣社祈年新嘗兩祭神饌

幣帛料ニ關スル件

(大正八年十月十五日  
未學乙四四八〇號式部長官通牒)

官幣社例祭竝官國幣社祈年、新嘗兩祭ニ御奉納ノ幣帛神饌料別紙ノ通御改定大正九年ヨリ實施相成候

(別紙)

官幣社例祭神饌幣帛料金額

官幣大社 一座ニ付

金六 拾 圓

金參 拾 圓

合計 金九 拾 圓

官幣中社 一座ニ付

金五 拾 圓

金貳 拾 五 圓

幣帛料 神饌料

幣帛料 神饌料



合計 金七拾五圓

官幣小社、別格官幣社 一座ニ付

金四 拾 圓

金貳 拾 圓

合計 金六拾圓

官幣社<sup>新年</sup>兩祭神饌幣帛料金額

官幣大社、國幣大社 一座ニ付

金參 拾 圓

金貳 拾 圓

合計 金五拾圓

官幣中社、國幣中社 一座ニ付

金貳 拾 五 圓

金拾 五 圓

合計 金四拾圓

官幣小社、別格官幣社、國幣小社 一座ニ付

神幣 饌帛料

神幣 饌帛料

神幣 饌帛料

金拾 八圓 幣帛料  
金拾 貳圓 幣帛料  
合計 金參拾圓 幣帛料

但シ幣帛現品ヲ以テ奉納セントスルトキハ左記ノ品目ニ據ル

官幣社例祭幣帛品目

官幣大社 一座ニ付

一、五色 繩

一、絲 繩

一、曝 布

一、木 綿

官幣中社 一座ニ付

一、五色 繩

一、曝 布

一、木 綿

各壹丈貳尺

壹端 絢

壹斤 端

貳斤 斤

貳斤 斤

各壹丈

壹端 丈

貳斤 端







○國幣社例祭竝ニ本殿遷座祭ニ供進スヘキ幣帛  
神饌料ニ關スル件

(昭和十三年四月十二日  
內務省訓令第九號)

北海道廳 府縣 東京府、大阪府、滋賀、奈良、和歌山、沖繩縣ヲ除ク

國幣社例祭竝ニ本殿遷座祭ニ供進スヘキ幣帛神饌料左ノ通定ム  
例祭幣帛神饌料

國幣大社	一座ニ付	金九拾圓	金六拾圓	神幣饌料
國幣中社	一座ニ付	金七拾五圓	金五拾圓	神幣饌料
國幣小社	一座ニ付	金六拾圓	金四拾圓	神幣饌料
本殿遷座祭幣帛神饌料				
國幣大社	一社ニ付	金九拾圓	金六拾圓	神幣饌料
國幣中社	一社ニ付	金七拾五圓	金五拾圓	神幣饌料
國幣小社	一社ニ付	金六拾圓	金四拾圓	神幣饌料

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
大正九年八月內務省訓令第十四號ハ之ヲ廢止ス

○府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件

(明治三十九年四月三十日  
勅令第九十六號)

改正 大正一一年八月勅令第三九三號、昭和十四年三月第六〇號

朕府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣又ハ北海道地方費ハ府縣社郷社竝ニ明治二十七年勅令第二十二號第一條ノ護國神社ノ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

市又ハ町村ハ村社及前項ノ護國神社以外ノ護國神社ノ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得  
前項ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ地方長官之ヲ指定ス

第二條 前條神饌幣帛料ノ金額ハ內務大臣之ヲ定ム  
第三條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル村社及第一條第一項ノ護國神社以外ノ護國神社ノ神饌幣帛料ニ



關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム（明治三十九年六月内務省令第十八號ヲ以テ同四十年一月一日ヨリ施行）

大正十一年勅令第三百九十三號附則

本令ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年四月一日ヨリ施行）但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ同條ノ施行期日ヲ定メタル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ○府縣社郷社村社及護國神社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額

改正 昭和十四年三月第一四號

（大正九年八月二十六日内務省令第二十四號）

明治三十九年四月勅令第九十六號第二條ニ依リ府縣社郷社村社及護國神社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額左ノ通定ム

一 新 年 祭			一 新 嘗 祭			一 例 祭		
府	郷	村	府	郷	村	府	郷	村
社	社	社	社	社	社	社	社	社
一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付	一社ニ付
金拾	金拾	金八	金拾	金拾	金八	金參	金貳	金拾
六	貳		六	貳		拾	拾	四
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
金拾六	金八四	金六貳	金拾六	金八四	金六貳	金貳拾	金六拾	金拾四
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
幣神	幣神	幣神	幣神	幣神	幣神	幣神	幣神	幣神
帛饌	帛饌	帛饌	帛饌	帛饌	帛饌	帛饌	帛饌	帛饌
料料	料料	料料	料料	料料	料料	料料	料料	料料



一 護國神社ノ例祭、鎮座祭及合祀祭

明治三十九年勅令第九十六號  
第一條第一項ノ護國神社

一社ニ付

金參

拾

圓

金拾  
金貳拾

圓

神饌料  
幣帛料

同第一條第一項ノ護國神社以  
外ノ護國神社

一社ニ付

金拾

四

圓

金四  
金拾

圓

神饌料  
幣帛料

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年十一月内務省令第十五號ハ之ヲ廢止ス

昭和三年十月二十七日  
内務省令第三十八號

大嘗祭ノ當日行フ祭祀ノ節府縣社以下神社中神饌幣帛料供進指定神社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額ハ大正九年八月内務省令第二十四號中例祭ノ例ニ依ル

○神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定標準ニ關スル件

(明治三十九年六月二十八日内務省訓第四九五號)

改正

大正元年一二月内務省訓第一九六號

道 廳、府

縣 沖繩縣  
ヲ除ク

明治三十九年四月勅令第九十六號及明治三十九年六月内務省令第二十號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ維持方法確立セルモノニ限ル儀ト心得ヘシ

第一項

- 一 延喜式内社、六國史所載社ノ創立年代之ニ準スヘキ神社
- 二 勅祭社、准勅祭社
- 三 皇室ノ御崇敬アリシ神社（行幸、御幸、行啓、奉幣祈願、社殿造營、神封、神領神寶等ノ寄進アリシ類）
- 四 武門、武將、國造、國司、藩主、領主ノ崇敬アリシ神社（奉幣、祈願、社殿造營、社領等ノ寄進アリシ類）
- 五 祭神當該地方ニ功績又ハ緣故アリシ神社



六 境内地百五十坪、本殿、拜殿、鳥居等完備シ五十戸以上ノ氏子若ハ崇敬者ヲ有スル神社

但シ東京市、京都市、大阪市、所在ノ神社境内地ニ限り百坪マテ下スコトヲ得

七 前記各號ノ外特別由緒アル神社

第二項

前項第七號ニ依リ指定セムトスルトキハ社格社名、所在地及事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

### ○神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定標準ニ關スル件

(明治四十二年十一月二十二日、局第一三〇號神社局長回答滋賀縣照會)

客月十八日付教發第三一九號ヲ以テ幣饌料供進神社指定ニ關スル件御照會相成候處右ハ明治三十九年訓第四九五號第六項ニ依リ指定スルモノニ在リテハ氏子若クハ崇敬者(其ノ神社所在地ニ住居シ氏子)五十戸又ハ氏子崇敬者ヲ合セ五十戸未滿ノ神社ハ指定セサル義ニ候ヘ共第六項以外ニ依リ指定スルモノハ必スシモ此ノ標準ニ據ラシムル必要無之ト存候尤モ維持法確立ヲ要スルハ各項トモ同一ト御了知相成度

### ○神饌幣帛料ヲ供進スル神社指定標準ニ關スル件

(大正三年十二月二十八日三發局第一二四號通牒)

各地方長官  
岩手縣ヲ除ク

神饌幣帛料供進神社指定ニ付建物ノ件ニ關シ岩手縣知事ヨリ照會有之右ニ對シ明治三十九年六月本省訓第四九五號第一項第六號ヲ適用スル場合社殿ニ付テハ本殿拜殿各別棟ノモノハ勿論ノ義ナルモ亦同一建物ヲ以テ本殿拜殿ニ兼用セルモノニ對シテモ同様指定シ差支無之尤モ此ノ場合ハ村社ニ在リテハ少クトモ六坪以上郷社縣社ニ在リテハ其ノ社格相當ノ建坪ヲ有シ神社ノ尊嚴ヲ保持シ得ルモノタルヲ要スヘキ旨經伺ノ上及回答候間左様御諒知相成度

### ○伊勢神宮ヲ除クノ外官幣諸社祭典ノ節地方官

參向ノ件

(明治六年二月十五日太政官布告第五十三號)

従前官幣諸社官祭ノ儀式部寮官員參向執行候處今後伊勢神宮ヲ除クノ外總テ地方官ニ於テ執行可致事  
(但巨細ノ儀ハ追テ式部寮ヨリ可相達事)



○官國幣社祈年祭新嘗祭例祭ノ節地方官參向ノ件

(明治十六年二月二十六日内務省達乙第八號)

改正 明治一七年二月内務省達乙第一號

府 縣

官國幣社祈年祭新嘗祭例祭之義ハ神社祭式之通地方長官又ハ次官參向可致答ニ付可成の事務繰合セ參向可致尤遠隔ノ地等不得已支障有之代理參向ノ節ハ府縣官並郡區長ニ限り候義ト可心得此旨相達候事

○府縣社以下幣帛供進使ニ關スル件

(明治四十四年九月十一日 内務省訓第四七九號)

改正 大正一一年八月内務省訓第六八三號

各 地 方 長 官 沖繩縣  
ヲ除ク

明治三十九年四月勅令第九十六號及同年六月内務省令第二十號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スル場合ニ於テハ道廳長官、府縣知事、郡長、島司、支廳長、市長、町村長又ハ之ニ準スヘキ者幣帛供進使トシテ參向スル儀ト心得ヘシ但シ其ノ代理者ヲシテ參向セシムルコトヲ妨ケス

○大喪中神社祭典ノ節幣帛供進使參向ニ關スル件

(大正元年九月十六日社第一一六通牒號)

大喪中ニ於ケル官國幣社以下ノ神社大祭ニ關シ明治四十五年七月三十日社第一〇二三號ヲ以テ及通牒置候處今般更ニ官幣社例祭並官國幣社祈年新嘗兩祭ノ際大喪全期中ハ幣帛供進使參向セス幣饌料ハ之ヲ神社ニ交附シ一社限り祭典執行セシメ候事ニ改定相成タル旨式部長官ヨリ通牒有之候ニ就テハ國幣社以下神社大祭ニ付テモ右ニ準據シ執行相成度依命此段通牒候也  
追テ其他祭典ニ付テハ前通牒ノ通ト御了知相成度爲念申添候

○神饌幣帛料供進指定神社ノ祈年新嘗兩祭典日ニ

(大正三年四月二十四日 社第十八號通牒)

關スル件

府縣郷社村社中神饌幣帛料供進指定神社ニ關シテハ本年四月以降祈年新嘗兩祭ニ當リテモ神饌幣帛料ヲ供進セラル、コトト相成候處祈年祭ハ二月十七日新嘗祭ハ十一月二十三日ニ執行可致儀ニ候ヘ共同日ニ執行シ難キ不得已事情アル場合ニ在リテハ兩祭共前期日以後ニ於テ可成之ニ近キ日ヲ撰定シ幣帛供進使參向ノ上祭典執行相成様致度



祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉  
廢合、參拜、寄附金、神札

○祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合  
參拜、寄附金、神札等ニ關スル件

(大正二年四月二十一日内務省令第六號)

改正

大正三年九月内務省令第二二號、一五年六月第三三號、昭和二年三月第一四號、三年五月第二〇號

官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、寄附金、神札等ニ關スル件左ノ通定ム

第一章 祭神、神社名、社格、明細帳

第一條 祭神ノ決定、變更又ハ訂正ヲ請ハムトスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

第二條 別格官幣社靖國神社ノ祭神ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ緣故アル地方ノ招魂社ニ合祀スルコトヲ得

第三條 祭神ノ靈代ハ公衆ニ拜觀セシムルコトヲ得ス

當該神職ハ特別ノ事由アルトキニ限り官國幣社ニ在リテハ内務大臣、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ拜觀スルコトヲ得

第四條 神社名ノ變更ヲ請ハムトスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

前項ニ依ル地方長官ノ處分ニシテ神社名ヲ宮名ニ改稱若ハ復稱シ又ハ延喜式内社、國史所載社其他特別由緒アル神社ノ神社名ヲ變更セムトスルモノナルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第五條 招魂社ハ其ノ社名中ニ招魂社ナル文字ヲ用フヘキモノトス

第六條 社格ノ變更又ハ訂正ハ由緒其ノ他特別ノ事由アルニ非サレハ詮議セサルモノトス

社格ノ變更又ハ訂正ノ詮議ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ハ之ヲ内務大臣ニ具申スルコトヲ得

第七條 神社、建物アル遙拜所及官修墳墓ニ付テハ地方長官ハ別記様式ニ依リ其ノ明細帳ニ通テ調製シ一通ヲ内務大臣ニ進達スヘシ

第八條 神社、建物アル遙拜所ノ管理者及官修墳墓ノ監守者ハ明細帳ノ様式ニ準シ調製セル明細書ヲ備付クヘシ

第九條 明細帳ニ脱漏ノ神社ハ其ノ編入ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得編入ノ許可ヲ受ケタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ



第十條 神社ハ明細帳ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ其ノ訂正ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十一條 北海道ヲ除クノ外祭神ノ決定、變更、訂正又ハ明細帳脫漏神社ノ編入ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ニ於テ内務大臣ニ稟請スヘシ但シ明細帳脫漏神社ノ編入ニシテ編入ト同時ニ之ヲ他ノ神社ニ合併セムトスルモノナルトキハ官國幣社、延喜式内社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ係ルモノヲ除ク外稟請ヲ要セス

第二章 境内

第十二條 新ニ境内地ヲ設定シ又ハ從來ノ境内地ヲ擴張セムトスルトキハ左ノ制限ニ超過スルコトヲ得ス但シ特別ノ緣故、土地ノ狀況等ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

官國幣社	五千坪
府縣社	千五百坪
郷社	千坪
村社	七百坪
招魂社	千五百坪
其ノ他ノ神社	五百坪

第十三條 神社ニ於テ其ノ境内地ノ設定、増減又ハ模様替ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ地方長官ニ於テ之ヲ許可セムトスルトキハ官國幣社境内地ノ模様替ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十四條 境内地ニシテ古墳若ハ其ノ傳説又ハ特別ノ由緒アル地域ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス地方長官ニ於テ之ヲ許可セムトスルトキハ官國幣社境内地ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十五條 神社ハ地方長官ノ指揮ヲ受ケ境内ニ管轄地方廳名ノ制札ヲ建設スルコトヲ得

制札ニ記載スヘキ禁止事項ノ概目左ノ如シ

一 車馬ヲ乗入ルコト

一 魚鳥ヲ捕ルコト

一 竹木ヲ伐ルコト

第十六條 境内地ノ木竹ニシテ由緒アルモノ及風致ニ必要ナルモノハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第十七條 境内地ニ於テ枯損木竹又ハ障碍木竹ヲ採取セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十八條 官國幣社ノ本殿及其ノ周圍ノ垣、幣殿、拜殿、鳥居、神饌所、社務所又ハ府縣社以下ノ神社ノ



本殿、幣殿、拜殿、鳥居ノ造修用材ニ必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ境内地ノ木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ神社ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除クノ外樹木ニ付テハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

一目通五尺以上一丈未満ノ樹木ノ一割

一目通一尺以上五尺未満ノ樹木ノ二割

前項ニ該當セサル建造物ト雖古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

**第十九條** 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ムヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐採スルコトヲ得

**第二十條** 民有借地境内地ノ木竹ニシテ地主ノ所有タル確證アルモノハ地主ヨリ神社ニ要求シ神社ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキニ限り之ヲ伐採スルコトヲ得

**第二十一條** 境内地ノ林藪經營上必要ナル間伐ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ

**第二十二條** 境内地ノ林藪ニシテ五町歩以上ニ渉ルモノニ付テハ特ニ保護並施業ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ五町歩以下ノモノト雖地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

**第二十三條** 監督官廳ニ於テ境内地ノ林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

**第二十四條** 境内地ニ於テハ土石、切芝又ハ樹根ノ採取ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ニ届出ツルモノトス

行政廳前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ由緒又ハ風致上必要ト認ムルトキハ其ノ採取ヲ禁止スルコトヲ得

**第二十五條** 境内地ニ接續スル土地ニ火入ヲ爲サムトスル者ハ境内ニ對スル防火ノ設備ヲ爲シ警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

**第二十六條** 境内地ニハ國家ニ功勞アルモノ又ハ頌揚スヘキ事蹟アルモノニ非サレハ其ノ碑表又ハ形像ヲ建設スルコトヲ得ス

前項ノ碑表又ハ形像ハ建設ヲ竣ルト同時ニ無條件ニテ神社ノ所有ニ移スモノニ非サレハ神社ハ其ノ建設ヲ承認スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ碑表又ハ形像建設取締ニ關スル他ノ規程ノ適用ヲ妨ケス

**第二十七條** 境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其ノ神社以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス



一 一時限リノ使用

一 參拜者休息所等ノ使用一年以内ニ止マルモノ

一 公益ノ爲ニスル使用ニシテ境内地ノ目的ヲ損セサルモノ

前項ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ神社ノ承認ヲ得地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ一時限リ使用ハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス

**第二十八條** 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ境内地ノ使用ヲ禁止シ若ハ停止シ又ハ建設物ノ改造撤却其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 制規ノ手續ヲ經サルトキ

一 期限ヲ經過シタルトキ

一 神社ノ爲メ必要アリト認メタルトキ

一 公益上必要アリト認メタルトキ

一 法令若ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

**第二十九條** 境内地ニ近接シ風致上必要ナル社有林ニ付テハ地方長官ニ於テ其ノ區域ヲ指定シ境内地ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得

**第三十條** 本章ノ規定ハ建物アル遙拜所ニ之ヲ準用ス

第三章 創立、移轉、廢合

**第三十一條** 祭神ノ事蹟顯著ニシテ土地ノ情況又ハ緣故等特別ノ事由アルニ非サレハ神社ヲ創立スルコトヲ得ス

**第三十二條** 神社ヲ創立セムトスルトキハ氏子又ハ崇敬者トナルヘキ者五十人以上ノ連署ヲ以テ創立ノ事由ヲ具シ左記事項ニ關スル調書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 祭神及神社名

二 由緒

三 社殿

四 鎮座地及境内地

五 建造費及其ノ處辨方法

六 維持方法

**第三十三條** 神社創立ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ社殿ヲ建設セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ年限ヲ延長スルコトヲ得  
建設ヲ竣リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

**第三十四條** 前三條ノ規定ハ神社ノ再興、復舊及建物アル遙拜所ノ建設並私祭神祠ヲ神社ト爲ス場合ニ之



ヲ準用ス

第三十五條 官國幣社ニ於テ其ノ攝末社ノ指定又ハ廢止ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ具申スヘシ

第三十六條 神社ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ移轉先ノ社地及建物ノ圖面ヲ添ヘ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ移轉了ラサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ年限ヲ延長スルコトヲ得

移轉了リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第三十七條 神社及建物アル遙拜所ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ廢止又ハ合併了リタルトキハ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條 道府縣ニ涉リ神社ヲ移轉シ又ハ合併セムトスルトキハ關係地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 地方長官ニ於テ前三條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ官國幣社、延喜式内社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第四十條 社殿亡失シタル後五年以内ニ再建セサル神社ハ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ年限ヲ延長スルコトヲ得

#### 第四章 參拜、寄附金、神札

第四十一條 神社ハ何等ノ名義ニ拘ラス參拜ノ爲メ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第四十二條 (削除)

第四十三條 神社又ハ神社ノ爲メニスル者ニ於テ寄附金ノ募集ヲ爲サムトスルトキハ其ノ目的、方法、金額、區域、期間及募集員ノ身元ヲ具シ神社所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタル上更ニ募集地地方長官東京府ニ在リテハ警視總監ノ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

神社ノ爲メニ寄附金募集ヲ爲サムトスル者ハ豫メ神社ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

寄附金ノ募集ニ關シ神社ノ尊嚴ヲ瀆シ其ノ他不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ムハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 (削除)

第四十五條 神社ニ於テ神札授與ノ爲メ出張所ヲ設ケタルトキハ出張所所在地地方長官ニ届出ツヘシ

#### 第五章 罰則

第四十六條 第二十五條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第二項ニ依ル命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十七條 神社ノ爲メニスル者ニ於テ第四十三條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第三項ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス



附 則

一五六

第四十八條 本令施行前調製シタル明細帳ハ第七條ニ依リ調製シタルモノト看做ス  
(大正十五年六月内務省令第三十三號)

附 則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

従前ノ規定ニ依ル境内地ノ土石、切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲サムトスル許可ノ申請ニシテ本令施行ノ際仍其ノ許可ヲ得サルモノニ付テハ之ヲ本令ニ依ル届出ト看做ス

(別 記)

第一號様式

官國幣社明細帳(美濃罫紙)

道 府 縣  
郡 市 區  
町 大字 字 鎮 座

(社 格)

(神 社 名)

一 祭神 (神名) (座數)

一 配祀 (神名)

一 由緒

一 例祭 (月日)

一 本殿 (建坪)

造 營ノ沿革

一 境内 (坪數)

一 氏子 (戶數)

一 境内神社

(神社名)

祭神 (神名)

由緒

社殿 (種類)

造營ノ沿革

一 境内招魂社

(招魂社名)

祭神 (神名)

由緒

一五七



社殿 (種類)

一 境内遙拜所

(遙拜所名)

由緒

建物 (種類)

備考

一 (社格)(神社名)(神名)等括弧ノ箇所ニハ各々其ノ該當ノ事項ヲ記載スヘシ

一 祭神二柱以上ナルトキハ之ヲ竝記スヘシ

一 特別由緒アル祭典ハ其ノ名稱及月日ヲ「例祭」ノ次項ヘ附記スヘシ

一 幣殿、拜殿、神饌所、社務所、神庫其ノ他特ニ重要ナル建物ハ「本殿」ノ例ニ倣ヒテ記載スヘシ但

シ「造營ノ沿革」ハ創建、改築、再築等特ニ著シキ事項ニ限り記載スヘシ

一本殿、幣殿、拜殿、神饌所、社務所、神庫其ノ他特ニ重要ナル建物ノ立圖、平圖及境内地竝其ノ附

近ノ平面圖ヲ添付スヘシ

一 境内神社、境内招魂社及境内遙拜所ニ付記載スヘキ事項中「種類」トアル箇所ニハ本殿、拜殿等建

物ノ名稱ヲ記載スヘシ但シ境内神社ノ「造營ノ沿革」ノ記載方ハ第四項ノ例ニ依ル

第二號様式

一 境外ニ在ル奥宮若ハ攝末社ハ本社ニ準シ明細帳ヲ調製シ本社明細帳ニ添付スヘシ

府縣社以下神社明細帳(美濃罫紙)

道	府	縣	市	郡	區	町	大字	字	番地	鎮座
---	---	---	---	---	---	---	----	---	----	----

(社格) (神社名)

一 祭神 (神名)

配祀 (神名)

一 由緒

一 社殿 (種類)

一 境内 (坪數)

一 氏子 (戶數)

一 境内神社

(神社名)

祭神 (神名)



- 由緒
- 社殿 (種類)
- 一境内招魂社
- (招魂社名)
- 祭神 (神名)
- 由緒
- 社殿 (種類)
- 一境内遙拜所
- (遙拜所名)
- 由緒
- 建物 (種類)
- 備考
- 一(社格)(神社名)(神名)等括弧ノ箇所ニハ各々其ノ該當ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一「社殿」ノ下「種類」トアル箇所ニハ本殿、幣殿、拜殿又ハ社務所等建物ノ名稱ヲ記載スヘシ
- 一氏子ナキ神社ニ在リテハ氏子ニ準スヘキ崇敬者戸數ヲ記載スヘシ

一明細帳ハ郡市區ニ別チテ編製シ目錄ヲ附スヘシ

第三號様式

招魂社明細帳 (美濃罫紙)

道府縣 市郡區 町村 大字 字 番地 鎮座

(官祭招魂社名)

- 一由緒
- 一社殿 (種類)
- 一境内 (坪數)
- 一祭神

神	名	舊藩名又ハ族籍身分	合祀年月日官私祭區別	職	死	事	故

第四號様式

遙拜所明細帳 (美濃罫紙)



縣府道  
國  
市郡  
區  
村町  
大字  
字  
番地  
(遙拜所名)

一由緒  
一建物(種類)  
一境内(坪數)  
第五號樣式

官修墳墓明細帳(美濃罫紙)

道府縣  
市郡  
區  
村町  
大字  
字  
番地  
官修墳墓

一設置ノ沿革  
一境内(坪數)

姓	名	舊	藩	名	創立年月日	戰死事故

○招魂社ヲ護國神社ト改正ノ件

(昭和十四年三月十五日  
内務省令第十二號)

招魂社ハ之ヲ護國神社ト改稱ス

附 則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### ○官國幣社正式參拜場所並著服等ノ件

(大正三年九月二十三日  
社第六三號神社局長通牒)

改正

大正四年五月發社第四〇號、九年六月第一八號、一五年一二月第六二號、  
昭和六年六月第三五號

- 一、皇族以下正式參拜ノ位置左ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フヘシ
- イ、本殿階下 皇族
- ロ、皇族ノ下 勅任待遇以上ノ者、貴衆兩院正副議長、有爵者、功三級以上、勳三等以上從四位以上ノ者
- ハ、勅任待遇者ノ下 貴衆兩院議員、奏任待遇以上ノ者、有爵者ノ家族ニシテ華族ノ禮遇ヲ享クル者、功四級以下勳四等以下、正五位以下ノ者、勅裁又ハ官制ニ依リ補命セラレタル者(官吏以外ノ)、學位ヲ有スル者、市長、道府縣會正副議長
- ニ、中門(祝詞舍)内
  - (茲ニ中門(祝詞舍)内トアルハ中門(祝詞舍)内ニ本殿ノミアル場合ヲ云フ而シテ本殿、幣殿(渡殿)拜殿等建物連接シ別ニ中門(祝詞舍)ノ設備ナキ神社ニ在リテハ拜殿内ニ設ク)
  - 判任待遇以上ノ者、町村長、市會正副議長、褒章條例並明治二十年勅令第十六號ニ依リ褒章ヲ賜ハリタル者
- 二、前項ノ配偶者ハ其ノ資格ニ準シ之ヲ取扱フヘシ有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキ亦同シ

- 三、參拜者ノ服裝ハ男子ハ通常服(フロックコート)又ハ紋附羽織袴トシ女子ハ通常服(「桂袴」)又ハ「ヅイヂツチングドレス」若ハ白襟紋附(袴着用妨ケナシ)トス但シ制服アルモノハ之ヲ著用スルコトヲ得
- 四、外國人ニ付テハ前各項ニ準シ之ヲ取扱フヘシ
- 五、社殿内ニ於ケル參拜者ニハ靴又ハ履物ヲ脱セシムルヘシ
- 六、參拜ノ際ハ官位勳爵ヲ記シタル名刺ヲ神社ニ差出サシムヘシ

### ○皇族下馬下乗ノ場所決定方ノ件

(明治七年三月十二日  
教部省達書甲第六號)

神宮並官國幣社

皇族御參拜等ノ節下馬下乗場所ノ儀ハ其社ノ實境ニ依リ本社ヨリ第一次ノ烏居或ハ樓門外又ハ階砌下等相當ノ向モ可有之候條各社ノ適宜ヲ以見込相立(略圖面ヲ副往復ノ外五日限り無遅延可伺出)此旨相達候事

(明治七年三月十五日  
教部省達書第六號)

府 縣

皇族各府縣社へ御參拜ノ節下馬下乗場所ノ儀ハ其社ノ實境ニ依リ本社ヨリ第一次ノ烏居或ハ樓門外又ハ階砌下等相當ノ向モ可有之候條各社ノ見込相立略圖面ヲ添へ往返ノ外十五日限り無遅延可伺出此旨相達候事



○府縣社皇族下馬下乘場所ノ決定伺ヲ要セサルノ件

(明治十三年六月二十五日  
内務省達乙第二十九號)

府 縣

明治七年三月舊教部省第六號達書各府縣社皇族下馬下乘場所之儀ハ自今當省へ不及伺出候條此旨相達候事

○官國幣社既定ノ下馬下乘場所更定方處理ノ件

(明治二十四年十一月七日  
局第四一號社寺局長回答)

官國幣社下馬下乘場所更定方處理之儀ニ付三第三二四四號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ經伺御處分相成可然ト存候

(明治二十四年十月三十日  
三第三二四四號靜岡縣照會)

縣社皇族下馬下乘場所之儀ハ不及伺旨會テ御達之趣モ有之候處官國幣社ニシテ已定ノ下馬下乘場所更定ノ場合ニ於テモ縣限り處理シ追テ及御報告可然哉

○官幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限り菊御紋ヲ用ユルヲ許ス

(明治七年四月二日  
太政官達)

社寺ニテ菊御紋相用候義禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭之幕提燈ニ限り菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社へ可相達事

○菊御紋禁止ノ布告前神殿ニ裝飾ノ菊御紋存置ノ件

(明治十二年五月二十二日  
太政官達第二十三號)

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ粧飾シタル分ニ限り其儘存シ置苦シカラス候此旨相達候事

○社寺濫ニ菊章ヲ用ユルヲ禁ス

(明治二年八月二十五日  
太政官布告)

社寺ニ於テ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下賀茂等寺ハ泉涌寺般舟院等之外ハ一切被差止候旨被 仰出候事

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事



氏子 崇敬者

○町村分合等ニ依リ甲社ノ氏子乙社ノ氏子ト

相成節甲乙社神官氏子連署届出方

(明治十五年五月一日  
内務省達乙第二十八號)

府

縣 沖繩縣  
ヲ除ク

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲届出明細帳引直シノ儀當省ヘ可申出此旨相達候事  
但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

○氏子ハ一戸一神社ニ限ルノ件

(明治二十九年六月二十三日  
局第一二號社寺局長回答)

本年五月二十一日付三第三一八二號ヲ以テ氏子及氏子總代ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ後段御見解ノ通  
リト存候

(明治二十九年五月二十一日  
三第三一八二號熊本縣照會)

一村ニ二村社アリ之カ氏子及氏子總代ハ兩屬致居候向有之候處凡ソ氏神ハ一戸一神社ニ限ル成規ノ明文不相見候ニ就テハ法令ニ戻ルモノトハ難認被存候ニ付信徒ト同シク二神社以上ノ氏子タル義ハ差支無之哉果シテ然ラハ縣社ノ氏子ニシテ尙ホ鄉村社ノ各氏子トナルモ敢テ差支無之義ニ候哉又ハ一戸一神社ニ限ル義勿論ニ候哉

○社寺總代人選舉届出及願届書收入財産取調方

(明治十四年七月二十一日  
内務省達乙第三十三號)

改正 明治二四年五月内務省訓令第八號

府

縣

各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中 氏子檀家ナキ 相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戸長役場ヘ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産ハ 田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲



致此旨相達候事

但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若ハ戸長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ

但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ

一七〇

### ○社寺總代人選舉ニ關スル件

(明治二十四年十二月十一日  
内務省訓第一〇六三號)

道廳府縣

社寺總代人ノ儀ニ付テハ明治十四年七月當省乙第三十三號及ヒ同二十四年五月訓令第八號等訓達ノ次第モ有之處該總代人ニ關シ尙左ノ通心得ヘシ

社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲メ事務ヲ澁滯セシムル等ノ弊害アリト見認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得

社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナリ

ト雖社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干渉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス  
右訓令ス

### ○社寺總代人被選舉資格ニ關スル件

(明治二十七年五月十日)(和歌山  
甲社第三號社寺局長回答)(縣照會)

社寺總代人被選者資格ノ義ニ付御照會ノ趣了承未丁年者及婦女ヲ除クノ外ハ非戸主ト雖モ相當ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者ハ差支サル義ニ有之候(下略)

### ○社寺總代人改選方ニ關スル件

(明治三十五年八月七日)  
鳥甲第九〇號神社局長通牒)

社寺總代人改選方之件鳥根縣伺出ニ對シ別紙之通指令相成候條爲御心得  
別紙

(明治三十五年六月二十八日)  
乾第四七三號鳥根縣伺)

一七一



社寺總代人選舉方ノ義ハ明治十四年御省乙第三十三號達ノ次第有之候處總代人ニシテ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者有之モ犯罪其ノ他不良ノ所爲アル云々ニ該當セサルヲ以テ改選セシムルコト不能然レトモ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモノヲ其ノ儘總代人ト爲シ置クハ社寺ノ不利益ニ付特ニ改選セシメ度右ハ目下差掛タル件有之候條至急御指令相成度

(明治三十五年八月六日  
内務省指令甲第九〇號)

明治三十五年六月二十八日付乾第四七二號伺社寺總代人改選方之件聞届ク

### ○總代人選舉管理者選定方ニ關スル件

(明治三十四年五月七日  
社甲第一五號神社局回答)

客月十九日付内一發第七二九號ヲ以テ氏子總代人選舉ニ關スル管理者選定ニ付御照會ノ趣了承右ハ該社ノ神職ヲ以テ管理者ト定メ執行セシムル義ト御了知相成度

(明治三十四年四月十九日  
内一發七二九號青森縣照會)

氏子中ヨリ其ノ總代人ヲ選舉スルノ手續ハ別段規定無之右ハ氏子ノ協議ニ依リ選定スヘキモノナルヘシト雖モ之カ管理者ナキニ於テハ氏子中異議ヲ唱フル者アレハ到底纏リ難キ次第ニ付此ノ場合ニ於テ右管理者

タルヘキモノハ該社ノ神職トナシ可然哉將タ町村長ヲシテ管理セシムヘキ義ニ可有之哉

### ○社寺總代人新舊交替期ニ關スル件

(明治三十八年十月二日宗甲第二  
一號神社宗教兩局長依命通牒)

社寺總代人新舊交替期ニ關シ左ノ通り決定相成候

- 一 社寺總代大改選ニ關スル明治二十四年本省訓令第八號ハ總代人改選ノ時期ヲ定メタルモノニシテ其ノ任期ヲ定メタルモノニアラス從テ一旦當選ヲ届出タル總代人ハ其ノ當選ヲ届出タル日ヨリ起算シ滿三年毎ニ改選セシムヘキハ勿論ナリト雖モ後任者ノ當選届出ヲ爲サ、ル間ハ其ノ三箇年ヲ經過セ
- ルノ故ヲ以テ當然總代人タル資格ヲ失ヒタルモノトナスヲ得ス

### ○社寺總代人任期及改選ニ關スル件

(明治三十八年十月  
神社宗教兩局長回答)

社寺總代人改選期等ノ儀ニ付御照會ノ趣社寺總代人ハ市町村役場ニ當選届出ノ日ヨリ滿三ヶ年毎ニ改選スヘキモノニ付當選届出ノ日ヲ異ニスルモノハ改選期日ヲ同一ナラシムルヲ得サル儀ニ有之候從テ犯罪其ノ他不良ノ行爲アル爲ニ臨時改選ヲ命スル場合ノ外在職三ヶ年未滿ノ者ニ對シ改選セシムル事ハ不相成儀ト



御承知有之度

追テ滿三ヶ年毎ノ改選期ニ於テ事故ヲ唱ヘ改選ヲ爲ササルカ如キ場合ニ於テハ臨機匡弊ノ御措置可相成筋ト存候

(明治三十八年十月  
和歌山縣照會)

社寺總代人新舊交替期ニ關シ本月二日宗甲第二一號ヲ以テ御通牒ノ趣敬承致候然ルニ縣ニ於テハ社寺總代人ハ三ヶ年毎ニ一定ノ時期ニ於テ各社寺トモ總テ改選セシムヘキ事ニ規定有之然ル處御通牒書中總代人當選ヲ届出タル日ヨリ起算シ滿三年毎ニ改選セシムヘキハ勿論ト有之右ニテハ縣下各社寺總代人ノ改選時期異ナルハ勿論一社寺ト雖モ補缺等ノ爲當選シタルモノハ其ノ期異ナル次第ニ付社寺ニ於テ其ノ改選ノ手數ヲ厭ヒ時期ヲ失スルモノ有之哉モ難計而シテ其ノ總代人三ヶ年ノ改選期經過スルモ其ノ故ヲ以テ總代人タルノ資格ヲ失ハサルニ於テハ自然改選期ニ至ルモ事故ヲ唱ヘ改選ヲ爲ササルノ弊ヲ生スル哉ニ相考候ニ付社寺總代人ハ假令滿三ヶ年在職ノ有無ニ拘ラス三ヶ年毎ニ一定ノ時期ニ於テ改選セシムヘキ規定ヲ存シ差支無之哉

### ○數社合併ノ場合神職ノ資格及總代人改選ニ關スル件

(明治四十三年五月二十八日  
玉甲第六八號神社局依命通牒)

客年五月六日附地發第二四〇號ヲ以テ神職ノ任用及氏子崇敬者總代選定ニ關スル件伺出相成候處右ノ場合ニ於テ神職ハ其ノ神社ノ合併ト同時ニ其ノ職ヲ失フヘク又總代モ同様其ノ職ヲ失フモノト認メラルモ氏子若クハ崇敬者ハ神社ノ合併ニ依リ合併後ノ神社ニ歸屬スルモノニ付合併後仍ホ總代人トシテ便宜取扱フ儀ハ敢テ差支無之ト存候尤モ之カ爲合併後ニ於テ總代ノ員數多キニ失スルトキハ減員ノ協定ヲ爲サシメ協議調ハサル場合ニハ明治二十四年十二月當省訓第一〇六三號訓令ニ依リ適宜御指定相成度

(明治四十二年五月六日  
地發第二四〇號埼玉縣伺)

數社合併ヲ要スルノ場合合併ヲ受クル神社ト合併セラル、神社トノ區別ヲ付シ難キ事情存スルヨリ各社相合シ新ニ一社ヲ形成スル姿ニテ別ニ適當ノ境内ヲ選ミ合併ヲ了セルモノアリ此ノ場合ニ於テハ從來ノ神職又ハ氏子信徒總代人ハ自然消滅ニ屬スヘキヲ以テ更ニ任用選定ヲ爲サ、ルヘカラサルモ神職ヲ推薦セシメンニハ總代人ナク總代人ヲ選定セシメンニハ之ヲ管理スヘキ神職アラサルモノナルニ依リ自然異例ノ手續ヲ履マサルヘカラスト思考ス右ノ場合ハ如何ナル手續ニ依リ處理シ可然哉



○社寺總代人選舉届出方ノ件

(明治二十四年十二月十日 管甲第三一號内務書記官)

明治十四年當省乙第三十三號達中各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中氏子檀家ナキモノハ信徒相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戸長役場へ届出サセ云々アルニ付總代人選舉ノ届ニハ別段届出ノ式ヲ定メサルカ如クナレ共該選舉届モ社寺ノ届ニ屬スルヲ以テ無論神官若クハ住職ト現在ノ總代人ト連署シ届出セシムヘキ筋ニ候條爲御心得此段及通報候也

○鎮座氏神ニ關シ氏子猥ニ去就スヘカラサル件

(明治一五年五月十三日 甲 第 四 七 號)

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署當府へ届出ツヘシ此旨布達候事

○神社寺院總代人ノ件

(明治十五年五月二十九日 甲 第 五 十 四 號)

改正 明治二四年六月府令第三五號

府社以下神社并寺院總代人ノ儀氏子檀家信徒ノ中相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上豫メ撰定シ戸長役場へ届置キ該社寺ノ願届等ハ渾テ總代人連署スヘク且社寺收入財産ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向料等一切受納物ヲ云フ)其社寺ノ所有ニ屬スヘキモノト神官住職ノ一己ニ附スヘキモノトノ區別ヲ豫定シ平素混亂セサル様可致總代人ハ滿三年毎ニ改選シ大阪市ハ區役所其他ハ市役所町村役場へ届出ヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選スヘシ但シ臨時改選ノ外ハ前總代再三當選スルモ妨ナシ

但明治十四年當府甲第一七九號布達ハ消滅ノ義ト心得ヘシ

(明治二十四年十二月二十八日 訓令 第 五 十 四 號)

郡役所 市役所 町村役場 區役所

社寺總代人ノ義ニ付テハ明治十五年當府甲第五十四號布達ノ次第モ有之候處該總代人ニ關シ尙左ノ通心得ヘシ



社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖トモ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲事務ヲ澁滯セシムル等ノ弊害アリト看認ルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得

社寺總代人ハ其社ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナレトモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干涉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄ニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

(明治二十五年十月二十一日  
訓令第四十八號)

郡市區役所 町村役場

社寺總代人ノ儀ニ付客年第五十四號訓令ノ趣モ有之候處其區域廣濶或ハ他方ニ散在シ從テ總代人ノ多數ヲ要スル向ハ右ノ内ヨリ豫メ幹事三名ヲ互撰シ至急ノ願届等ハ右人員ニテ連署スルモ苦シカラス

### ○社寺總代人選舉ニ關スル件

(明治三十六年十月二十六日  
訓令第二十七號)

郡長 市長 町村長

社寺總代人ハ滿三年毎ニ改選スヘキ法規ナルニ期限中缺員アルモ補缺選舉ヲ行ハス或ハ滿期後直ニ改選ヲ

爲サス其ノ連署スヘキ社寺ノ願届ニ往々不合式或ハ全ク無効ノ連署ヲ爲スニ至リ不都合不埒候條自今堅ク明治十五年當府甲第五十四號達ニ基キ直チニ選舉ヲ執行シ以テ違法ニ陥ラサル様各社寺及氏子竝檀信徒ニ對シテ注意ヲ加フ可シ



## 財産會計

一八〇

### ○神社財産ニ關スル件

(明治四十一年三月二十三日)

(法律第二十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル神社財産ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

**第一條** 本法ニ於テ神社ト稱スルハ官國幣社、府縣社以下ノ神社ヲ謂ヒ財産ト稱スルハ神社ノ不動産及寶物ニシテ登録ヲ受ケタルモノヲ謂フ

**第二條** 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ神社財産ヲ擔保ニ供シ又ハ處分シタルトキハ之ヲ無効トス神社ノ負債ニ付亦同シ

**第三條** 神社財産ヲ處分スル場合ニ於テ其ノ神社ノ神職、氏子總代及崇敬者總代ハ之ヲ取得スルコトヲ得ス

**第四條** 神社財産タル境内地、社殿其ノ他境内地ニ在ル工作物及寶物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

**第五條** 神社ノ不動産及寶物ハ地方廳ニ於テ保管スル臺帳ニ登録ヲ受クヘシ

登録ニ關スル事項及登録ト不動産登記トノ關係ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十一年七月勅令第百七十六號)以テ同年十月一日ヨリ施行

本法ハ別格官幣社靖國神社ニ之ヲ適用セス

### ○神社財産ノ登録ニ關スル件

(明治四十一年七月二十日)

(勅令第百七十七號)

朕神社財産ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

**第一條** 神社財産ノ登録ハ神社所在地ノ地方廳ニ於テ之ヲ爲ス

**第二條** 神社財産ヲ登録スル臺帳ハ神社財産登録臺帳ト稱シ不動産登録臺帳及寶物登録臺帳ノ二種トス

神社財産登録臺帳ニ登録スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 土地ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、境内地境外地ノ區別
- 二 社殿及工作物ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、社殿其ノ他工作物ノ種類、若ハ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號、構造、建坪又ハ間數、境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別
- 三 寶物ハ名稱、員數、品質、形狀又ハ寸尺、著作者又ハ傳來明カナルトキハ其ノ作者又ハ傳來
- 四 登録ノ年月日、番號

**第三條** 神社ハ不動産又ハ寶物ヲ取得シタルトキハ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ但シ土地及境外地ニ在ル建物ニ付テハ申請前登記ヲ經ルコトヲ要ス

前項但書ニ依ル登記ノ爲該期間内ニ申請ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ登記ノ了リタルトキヨリ十五日以内ニ登録ヲ申請スヘシ



登録事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦前二項ニ同シ

第四條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ爲シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第五條 神社ハ神社財産ヲ處分シタルトキ若ハ其ノ滅失シタルトキ又ハ寶物ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ七日以内ニ登録ノ抹消ヲ申請スヘシ

第六條 登記所ニ於テ裁判所ノ囑託ニ依リ神社財産ノ登記アル不動産ニ付民事訴訟法第七百條第一項第一號又ハ競賣法第三十三條第一項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク神社所在地ノ地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ不動産ノ登録ヲ抹消スヘシ

第七條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ抹消シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財産ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附 則

本令ハ明治四十一年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (明治四十一年十月一日ヨリ施行)

神社ハ本令施行ノ際現ニ所有スル不動産及寶物ニ付本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

○神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件

(明治四十一年七月二十日  
内務省令第十二號)

改正 明治四十二年四月内務省令第一四號、大正元年一月第八號、三年一二月第二八號、  
七年六月第一二號、一五年六月第三二號

神社ノ財産登録及管理並會計ニ關スル件左ノ通定ム

第一章 登 録

第一條 地方廳ニ於テ保管スル神社財産登録臺帳ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ

第二條 神社ニ於テ登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

第二章 管 理

第三條 神社ハ不動産、寶物其ノ他貴重ノ書畫什器類ハ之ヲ臺帳ニ登載シ其ノ増減變更アリタルトキハ加除訂正スヘシ

不動産及寶物ヲ登載スル臺帳ハ神社財産登録臺帳ノ様式ニ準シ調製スヘシ

第四條 寶物及貴重品ハ其ノ容器又ハ適當ナル箇所ニ番號票ヲ附シ臺帳ニ其ノ合番號ヲ記入スヘシ

第五條 左ニ掲タル事項ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス



- 一 不動産、寶物其ノ他貴重品ヲ買入ル、コト
  - 一 負擔附ノ寄附ヲ受クルコト
  - 一 寶物其ノ他貴重品ヲ神社外ニ持出スコト
- 第六條 用途指定ノ寄附金品ハ其ノ用途以外ニ使用又ハ處分スルコトヲ得ス

第三章 會計

第七條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 神社ハ每會計年度收入支出豫算ヲ定メ年度開始ノ一月前迄ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長府縣支廳長又

ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長）ノ認可ヲ受クルモノトス

豫算ノ追加更正ヲ爲サムトスルトキハ其ノ都度認可ヲ受クヘシ

第九條 收入支出ハ神職ノ職名ヲ以テ之ヲ執行スヘシ

第十條 收入支出ハ帳簿ニ記入シ記入毎ニ神職檢印ヲ捺スヘシ

第十一條 支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルニ非レハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十二條 神社ハ每會計年度收入支出決算書並ニ資金明細書ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳

支廳長、府縣支廳長ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長）ニ報告スルモノトス

第十三條 毎年度社入金ノ百分ノ五以上ハ基本財産トシテ積立ツヘシ

第十四條 基本財産ハ其ノ神社維持ノ爲已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非レハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第十五條 基本財産ヨリ生スル收入ハ經費ニ充用スルコトヲ得

第十六條 基本財産ハ國債登錄、公債證書其ノ他ノ確實ナル有價證券ト爲スカ又ハ〔中央金庫〕〔本支金庫〕郵便官署、日本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ土地ヲ買入又ハ前項以外ノ銀行ニ預入若ハ其ノ他ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十七條 有價證券ハ〔中央金庫〕郵便官署、日本銀行、日本興業銀行ニ保管ヲ委託スヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項以外ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十八條 従前積立タル資金ハ基本財産ニ編入スヘシ但シ特別ノ目的ヲ以テ積立タルモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ整理スヘシ

第十九條 古社寺保存法ニ依リ下附セラレタル修理保存費ハ特別ニ整理スヘシ

第二十條 官國幣社ノ會計ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル